

FM 文理融合科目 A(B)

シラバス

2019 年度

(2019.5.7 現在)

未来型医療創造卓越大学院プログラム

* 未掲載分については、詳細が決定次第掲載します。

・Dコース、Tコース、Sコースの学生は、異なるコースの科目を1単位以上履修する必要があります。

・後期課程、医・歯・薬履修課程の学生が受講するときは、「FM文理融合科目B」となります。その場合は、前期課程及び修士課程に在学中に履修した科目以外から選択することになります。

（前期課程・修士課程を経ずに、直接履修課程に入学した学生は、すべての科目から選択が可能です。）

・授業のタイトル、開講曜日・校時は変更される場合があります。

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	生命環境倫理学特論Ⅰ	直江 清隆 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月12日(金)～2019年7月26日(金)			
曜日・時間	金曜日・3点講時(13時00分～14時3分)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・文学研究科棟			
講義室等名称	611 演習室			
授業代表教員	教授 直江清隆(文学研究科)			
【授業の目的と概要】 生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考える能力を養う。科学技術の発展に伴って、生命・医療、環境など多様な領域に新たな問題もたらされている。則ち、人類が大きな可能性を手にすることで、それまで自然に委ねられて問われなくても済んだ事柄に対し、新たに哲学的、倫理的取り組みが求められている。この授業ではこうした問題に取り組むための理論と具体例とを取り扱う。				
【学修の到達目標】 生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考えることができる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 今学期は、ドイツ語圏での生命、環境倫理学を参照しつつ、 1)尊厳概念の諸相(生命、環境、技術など) 2)科学/技術の現在と人間の尊厳の再検討 について順に論じ、哲学的・倫理的問題の所在を明らかにする。(講義となっているが、必要に応じて、大学院生による報告も織り交ぜることを予定している)。				
【将来像】 「生命環境倫理学特論Ⅰ」の習得により、生命環境倫理学の大枠をつかみ、各受講生の経歴や研究内容に即して倫理的問題を発見し解決することを通じて、医療の未来に貢献することを期待する。				
【その他】 実際の履修内容の詳細については、開講時に教員から指示がなされます。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学研究科	生命環境倫理学研究演習Ⅰ	直江 清隆 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月4日(金)～2020年1月24日(金)			
曜日・時間	金曜日・ 3講時(13時00分～14時3分)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・文学研究科棟9F・			
講義室等名称	919 演習室			
授業代表教員	教授 直江清隆(文学研究科)			
【授業の目的と概要】 高齢化の進む先進校社会において、医療や技術には新たな対応が求められている。この授業ではこのような状況で考慮されるべき平等、権利、豊かさ、苦痛、エンハンスメントなどについて考えていくことにする。				
【学修の到達目標】 生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとする。論文は、John K. Davis New Methuselahs, 2018, P. Lin et al. (ed.) Robot ethics 2.9, 2018, A. Feenberg, Technology, modernity, and democracy, 2018 などから適宜選択するが、日本語の論文も取り上げる。じっくり討論することに力点を置く。				
【将来像】 「生命環境倫理学特論Ⅰ」の習得により、生命環境倫理学の大枠をつかみ、各受講生の経歴や研究内容に即して倫理的問題を発見し解決することを通じて、医療の未来に貢献することを期待する。				
【その他】 実際の履修内容の詳細については、開講時に教員から指示がなされます。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	科学哲学研究演習Ⅱ	直江 清隆 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月 1日(火)～2010年1月27日(火)			
曜日・時間	火曜日・ 2講時(10時30分～12時00分)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・文学研究科棟			
講義室等名称	919 演習室			
授業代表教員	教授 直江清隆(文学研究科)			
【授業の目的と概要】 因果性はヒューム以来の哲学的問題である。この問題は、狭義の哲学的問題であるだけでなく、数物科学、生命科学、社会科学などにおいて重要な位置を占めている。この演習では、現在の科学哲学における因果性の問題についての議論を取りあげ、検討する。				
【学修の到達目標】 ・因果性がどのようなものであるかについて、哲学的問題の所在を理解し、自分なりの考えをもてるようになる。 ・因果性についての日本語、英語の論文を理解できる力を身につける。				
【授業の内容・方法と進度予定】 マンフォード、アンユム『因果性』(邦訳あり)を手がかりに、関連する最近の英語論文を取りあげ、議論する。				
【将来像】 「科学哲学研究演習Ⅱ」の習得により、医学、生命科学の基礎カテゴリーとその適用に対する理解を深め、各受講生の経歴や研究内容における問題解決の能力を高めることを通じて、医療の未来に貢献することを期待する。				
【その他】 実際の履修内容の詳細については、開講時に教員から指示がなされます。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	倫理思想概論	戸島 貴代志 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月9日(火)～ 2019年 7月 日 ()			
曜日・時間	火曜日・ 2講時 (10時 30分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・文学部第二講義室			
講義室等名称	文学部第二講義室			
授業代表教員	教授 戸島貴代志 (文学研究科)			
【授業の目的と概要】 もの、〈外側から〉眺められ、〈内側から〉生きられる。前者すなわち〈表象する思考〉は対象から距離をとる客観的思考を目指し、後者すなわち〈遂行する思考〉は対象そのものと一つになる主体的思考を目指す。講義では、両者の中庸に本来の現象学的思考が位置することを説明し、倫理学の原点には常にかかる中庸が控えていることを、「外側から捉えることと内側から捉えること」という内容を中心にして解明する。				
【学修の到達目標】 広い意味での哲学的思考における最も基本的な二つのものの見方の理解を得ること				
【授業の内容・方法と進度予定】 第1回 ものを外側から知ることと内側から知ること① 第2回 ものを外側から知ることと内側から知ること② 第3回 ものを外側から知ることと内側から知ること③ 第4回 存在と所有① 第5回 存在と所有② 第6回 思考の枠組み① 第7回 思考の枠組み② 第8回 個と場① 第9回 個と場② 第10回 時間・空間のサイズ① 第11回 時間・空間のサイズ② 第12回 言葉ともの① 第13回 言葉ともの② 第14回 自覚について 第15回 まとめ				
【将来像】 哲学的思考における最も基本的な二つのものの見方の理解を得て、あらゆる場面に応用できる人物となることを期待します。				
【その他】 詳しくは授業時に指示します。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	倫理思想各論	池田 準 非常勤講師	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月1日(火) 2020年2月 日 ()			
曜日・時間	火曜日・ 5講時 (4時 20分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・文学研究科棟			
講義室等名称	701 講義室			
授業代表教員				
【授業の目的と概要】 本講義では、『人倫の形而上学（道徳形而上学）の基礎づけ』（1785）を基本のテキストとして、カントが取り組んだ倫理的課題とその論証内容を解き明かしていきます。各章の表題にある通り、この著作は道徳に関わる常識的な道徳認識から道徳哲学、そして純粹実践理性批判へと段階を追って読者の認識水準を高めていくように構成されています。これに即したかたちで「道徳性の最上の原理とは何か」というカントが提示した課題に対する理解を深めていくことが本講義の目的になります。 『基礎づけ』にはカントの倫理思想を理解する上で欠かせない基本概念（義務、格率、定言命法、道徳法則、自律、意志の自由など）が登場しますが、それらの概念を体系的に把握するために適宜カントの他の著作（『純粹理性批判』『実践理性批判』『人倫の形而上学』など）やカントに影響を与えた哲学者たち（モラル・センス学派やルソー、ライプニッツなど）の思想についても関連する部分に焦点を絞って紹介します。				
【学修の到達目標】 (1) カントの倫理思想の基本概念が理解できるようになる。 (2) カントが提起した問い「道徳性の最上の原理とは何か」を自分自身の問いとして引き受け、探究し直す力を身につける。 (3) 自らの道徳判断を根拠と共に提示し、倫理問題に関する生産的な議論ができるようになる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1. カントの問題提起とその位置づけ（『基礎づけ』序言） 2. 意志と傾向性（『基礎づけ』第一章） 3. 義務に適合する行為と義務に基づく行為（『基礎づけ』第一章） 4. 格率と法則（『基礎づけ』第一章） 5. なぜ博愛主義者は道徳的ではないのか（質疑応答と序言・第一章の復習） 6. 道徳性と理性（『基礎づけ』第二章） 7. 仮言命法（『基礎づけ』第二章） 8. 定言命法(1) 普遍性（『基礎づけ』第二章） 9. 定言命法(2) 目的と尊厳（『基礎づけ』第二章）				

10. 定言命法(3) 自律 (『基礎づけ』第二章)
11. なぜこの「私」が普遍的な規範に従わなければならないのか (質疑応答と第二章の復習)
12. 意志の自由と道徳性 (『基礎づけ』第三章)
13. 定言命法の正当化 (『基礎づけ』第三章)
14. 道徳的探究の限界 (『基礎づけ』第三章)
15. 道徳性の最上の原理とは何か (質疑応答と全体のまとめ)

【将来像】

自らの道徳判断を根拠と共に提示し、倫理問題に関する生産的な議論ができるような人間になることを期待します。

【その他】

実際の履修内容の詳細については、入学当初のガイダンスや指導教員に従ってください。

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	倫理学特論Ⅱ	池田 準 非常勤講師	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月1日(火) 2020年2月 日 ()			
曜日・時間	火曜日・ 5講時 (4時 20分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・文学研究科棟			
講義室等名称	701 講義室			
授業代表教員				
【授業の目的と概要】 本講義では、『人倫の形而上学（道徳形而上学）の基礎づけ』（1785）を基本のテキストとして、カントが取り組んだ倫理的課題とその論証内容を解き明かしていきます。各章の表題にある通り、この著作は道徳に関わる常識的な道徳認識から道徳哲学、そして純粹実践理性批判へと段階を追って読者の認識水準を高めていくように構成されています。これに即したかたちで「道徳性の最上の原理とは何か」というカントが提示した課題に対する理解を深めていくことが本講義の目的になります。 『基礎づけ』にはカントの倫理思想を理解する上で欠かせない基本概念（義務、格率、定言命法、道徳法則、自律、意志の自由など）が登場しますが、それらの概念を体系的に把握するために適宜カントの他の著作（『純粹理性批判』『実践理性批判』『人倫の形而上学』など）やカントに影響を与えた哲学者たち（モラル・センス学派やルソー、ライプニッツなど）の思想についても関連する部分に焦点を絞って紹介します。				
【学修の到達目標】 (1) カントの倫理思想の基本概念が理解できるようになる。 (2) カントが提起した問い「道徳性の最上の原理とは何か」を自分自身の問いとして引き受け、探究し直す力を身につける。 (3) 自らの道徳判断を根拠と共に提示し、倫理問題に関する生産的な議論ができるようになる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1. カントの問題提起とその位置づけ（『基礎づけ』序言） 2. 意志と傾向性（『基礎づけ』第一章） 3. 義務に適合する行為と義務に基づく行為（『基礎づけ』第一章） 4. 格率と法則（『基礎づけ』第一章） 5. なぜ博愛主義者は道徳的ではないのか（質疑応答と序言・第一章の復習） 6. 道徳性と理性（『基礎づけ』第二章） 7. 仮言命法（『基礎づけ』第二章） 8. 定言命法(1) 普遍性（『基礎づけ』第二章） 9. 定言命法(2) 目的と尊厳（『基礎づけ』第二章）				

10. 定言命法(3) 自律 (『基礎づけ』第二章)
11. なぜこの「私」が普遍的な規範に従わなければならないのか (質疑応答と第二章の復習)
12. 意志の自由と道徳性 (『基礎づけ』第三章)
13. 定言命法の正当化 (『基礎づけ』第三章)
14. 道徳的探究の限界 (『基礎づけ』第三章)
15. 道徳性の最上の原理とは何か (質疑応答と全体のまとめ)

【将来像】

自らの道徳判断を根拠と共に提示し、倫理問題に関する生産的な議論ができるような人間になることを期待します。

【その他】

実際の履修内容の詳細については、入学当初のガイダンスや指導教員に従ってください。

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学研究科	倫理思想概論	村山 達也 准教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月4日(金)～2020年2月 日 ()			
曜日・時間	金曜日・4講時(14時40分～16時10分)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス			
講義室等名称				
授業代表教員	准教授 村山達也(文学研究科)			
【授業の目的と概要】 「何が善いことで、何が悪いことなのか」「善悪など人それぞれではないのか」「幸福とは何か」「生きることに何の意味があるのか」……。こうした、人間の生き方の価値をめぐって生じる問題について、できるかぎり明確に、理論的に答えようとするのが倫理学です。この講義を受講することで、現代倫理学の基礎知識や、そこで用いられる思考法についてひととおり学ぶことができます。ただし「現代」倫理学に特化しますので、倫理学的な側面については必要な範囲で触れるにとどまります。また、理論的な問題に特化しますので、いわゆる応用倫理学の問題については事例として簡単に挙げる程度です。				
【学修の到達目標】 (1) 倫理学の基礎知識(基本的な問題と主要な回答、ならびに重要な反論)を身につける。 (2) 倫理学が用いる方法についての基礎知識を身につける。 (3) 倫理的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 第一回：導入／第二回：価値の相対主義／第三回：質問への回答／第四回：善悪の規準(1)／第五回：善悪の規準(2)／第六回：善悪の規準(3)／第七回：現代の正義論／第八回：質問への回答／第九回：善悪の客観性／第一〇回：なぜ善いことをしなくてはいけないのか／第十一回：質問への回答、ならびに道徳と宗教の関係／第十二回：幸福とは何か／第十三回：人生に意味はあるか／第十四回：質問への回答／第十五回：全体のまとめ 以上はあくまで予定です。詳細については初回に説明します。なお、理解度を確認し、その深化を図るため、毎回アンケートを取り、質問に答える回を定期的に設けます。				
【将来像】 本講義を受講することで、善人になったり幸福になったりすることはできませんし、善悪や幸福にかかわる問題に自動的に答えを出せるようにはなりません。少しでも明晰に考えることはできるようになります。				
【その他】 特別な予備知識は不要です。教材等もすべてプリントで配布します。講義内容がやや豊富なため、適宜復習し、参考文献にもあたることを望まれます。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学研究科	倫理学研究演習 V	村山 達也 准教授	2
授業形態		<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他（発表演習） 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開 講 期 間		2019年4月12日（金）～2019年7月 日（ ）		
曜 日 ・ 時 間		金曜日・2講時（10時30分～12時00分 ）		
キャンパス・建物		川内南キャンパス・文学研究科棟		
講義室等名称				
授業代表教員		准教授 村山達也（文学研究科）		
【授業の目的と概要】 「幸福は主観的なものにすぎないのか」「死と幸福はどのように関係しているか」「道徳と幸福はどう関係しているのか」といった問題、まとめて言えば、幸福（福利）をめぐる問題について、入門書や論文・書籍の一部（いずれも日本語）を読みながら考えます。 担当者によるテキストの報告をもとにした議論を何回か続けたのち、五月なかば頃にレポートを提出してもらい、それ以降は担当者によるレポート発表をもとに議論していきます。初回に予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。				
【学修の到達目標】 (1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。 (2) 倫理学的問題について自分なりの問題を設定し、論述できるようになる。 (3) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 第一回：導入 & テキストの配布／第二回：倫理学の入門書の読解（1）／第三回：倫理学の入門書の読解（2）／第四回：倫理学の入門書の読解（3）／第五回：倫理学の論文の読解（1）／第六回：倫理学の論文の読解（2）／第七回：倫理学の論文の読解（3）／第八回：担当者によるレポート発表と議論（以下同様）。				
【将来像】 本演習に参加することで、道徳や幸福といった価値に関わる議論に固有の難しさを存分に味わうことになるとは思いますが、その経験をつうじて、価値にかかわる事柄について論述し、議論や質問を行なう力を身につけることができます。				
【その他】 前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである（単位は取得できていなくても構わない）ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくこととなります。初回に相談してください。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	倫理学研究演習Ⅵ	村山 達也 准教授	2
授業形態	<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他（発表演習） 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開 講 期 間	2019年10月4日（金）～2020年2月 日（ ）			
曜 日 ・ 時 間	金曜日・2講時（10時30分～12時00分 ）			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・文学研究科棟			
講義室等名称				
授業代表教員	准教授 村山達也（文学研究科）			
【授業の目的と概要】 「道徳行為は他の行為と何が異なるのか」「理性は私たちを道徳行為へと動機づけうるか」 「道徳行為への動機づけにおいて感情はどのような役割を果たしているのか」といった、道徳行為をめぐる問題について、古典的テキストと現代の入門書を読みながら考えます。 担当者によるテキストの報告をもとにした議論を何回か続けたのち、十一月半ば頃にレポートを提出してもらい、それ以降は担当者によるレポート発表をもとに議論していきます。初回に予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。				
【学修の到達目標】 (1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。 (2) 倫理学的問題について自分なりの問題を設定し、論述できるようになる。 (3) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 第一回：導入 & テキストの配布／第二回：倫理学の古典の読解（1）／第三回：倫理学の古典の読解（2）／第四回：倫理学の古典の読解（3）／第五回：倫理学の論文の読解（1）／第六回：倫理学の論文の読解（2）／第七回：倫理学の論文の読解（3）／第八回：担当者によるレポート発表と議論（以下同様）。				
【将来像】 本演習に参加することで、道徳や幸福といった価値に関わる議論に固有の難しさを存分に味わうことになるとは思いますが、その経験をつうじて、価値にかかわる事柄について論述し、議論や質問を行なう力を身につけることができます。				
【その他】 前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである（単位は取得できていなくても構わない）ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくこととなります。初回に相談してください。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	社会変動学特論Ⅱ	田代 志門 准教授	2
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開講期間		2019年4月9日(火)～2019年7月日()		
曜日・時間		火曜日・3講時(13時00分～)		
キャンパス・建物		川内南キャンパス・文学研究科棟		
講義室等名称				
授業代表教員		准教授 田代志門(文学研究科)		
【授業の目的と概要】 生命科学・医学研究は「ヒト」を直接の研究対象とすることにより、私たちの人間観や社会観に大きな影響を与えてきた。この授業では、生命科学・医学研究の進展がもたらす倫理的・法的・社会的課題について、基礎から応用まで様々な具体例を取り上げ、社会科学的な視点から検討する。				
【学修の到達目標】 (1) 生命科学・医学研究の倫理的・法的・社会的課題に関する基本的な知識を得る。 (2) 上記の課題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1 イントロダクション 生命操作の現在 2 生殖医療(1) 3 生殖医療(2) 4 遺伝医学(1) 5 遺伝医学(2) 6 再生医療(1) 7 再生医療(2) 8 臨床研究(1) 9 臨床研究(2) 10 臨床研究(3) 11 医薬品開発のグローバル化(1) 12 医薬品開発のグローバル化(2) 13 研究者の社会的責任(1) 14 研究者の社会的責任(2) 15 まとめ				
【将来像】				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	社会学研究実習Ⅰ	永井 彰 教授	2
授業形態		<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他 (現地調査を含む) 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開 講 期 間		2019年4月12日(金)～2019年8月日()		
曜 日 ・ 時 間		金曜日・3, 4 講時(13時00分～)		
キャンパス・建物		川内南キャンパス・文学研究科棟		
講義室等名称				
授業代表教員		教授 永井彰(文学研究科)		
【授業の目的と概要】 1)地域調査(地域社会を対象とした社会調査)の理論と方法を理解する。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。 社会調査実習(1)では、現地調査の準備作業までおこなう。				
【学修の到達目標】 1)地域調査(地域社会を対象とした社会調査)の理論と方法を理解できるようになる。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 第1回：ガイダンス(実習の内容、方法、計画、調査テーマなどについての説明) 第2回：地域調査の理論と方法(1)基本データの収集法 第3回：地域調査の理論と方法(2)農村研究と都市研究の理論と方法 第4回：地域調査の理論と方法(3)生活史研究法 第5回：調査の構想についての議論 第6回：先行研究の検討 第7回：調査対象地についての情報収集と分析 第8回：調査企画の精緻化 第9回：予備調査(1)対象地訪問と対象者の選定 第10回：調査項目の検討(1)属性項目の検討 第11回：調査項目の検討(2)内容分析項目の検討 第12回：調査票の作成(1)前半部分の作成 第13回：調査票の作成(2)後半部分の作成 第14回：予備調査(2)プリテストの実施 第15回：調査票の完成				
【将来像】				
【その他】 ・社会学研究実習Ⅱを引き続き履修することが望ましい。 ・本年度の調査は、宮城県沿岸部の津波被災地を対象とし、地域社会の再編と地位包括ケアシステムの構築にかかわる事例を取り扱う。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学研究科	社会学研究実習Ⅱ	永井 彰 教授	2
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他 (現地調査を含む) 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開講期間		2019年 10月4日(金)～2020年2月 日()		
曜日・時間		金曜日・3、4 講時(13時00分～)		
キャンパス・建物		川内南キャンパス・文学研究科棟		
講義室等名称				
授業代表教員		教授 永井彰(文学研究科)		
【授業の目的と概要】 (1)地域調査(地域社会を対象とした社会調査)の理論と方法を理解する。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。 社会調査実習(2)では、現地調査の実施から調査データの分析、報告書の作成、分析結果の口頭発表までおこなう。				
【学修の到達目標】 (1)地域調査(地域社会を対象とした社会調査)の理論と方法を理解できるようになる。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 第1回：現地調査についてのガイダンス(調査倫理や、訪問先でのマナーの確認を含む) 第2回：地域調査の実施(1)1回目の現地調査 第3回：地域調査の実施(2)2回目の現地調査 第4回：地域調査の実施(3)3回目の現地調査 第5回：現地調査データの整理集計 第6回：分析方針の検討 第7回：調査結果の分析(1)属性項目の分析 第8回：調査結果の分析(2)量的データの分析 第9回：調査結果の分析(3)質的データの分析 第10回：補充調査の実施 第11回：報告書の企画構成の検討 第12回：報告書の作成(1)基本属性の記述と点検 第13回：報告書の作成(2)量的・質的分析事項の記述と点検 第14回：報告の口頭発表 第15回：対象地での研究成果発表				
【将来像】				
【その他】 ・社会学研究実習Ⅰとあわせて履修することが望ましい。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	社会心理学特論Ⅰ	荒井 崇史 准教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開 講 期 間	2019年4月8日(月)～2019年8月5日(月)			
曜 日 ・ 時 間	金曜日・3講時(13時00分～14時30分)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・文学研究科棟			
講義室等名称	311教室			
授業代表教員	准教授 荒井崇史(文学研究科)			
【授業の目的と概要】 本授業は、日常で生じる反社会的行為(犯罪や非行)を社会心理学的な視点から捉えることで、そうした行為を理解するための知識を習得することを目的とする。また、反社会的行為を抑止・予防する視点を学ぶことで、特定の問題を予防するための施策を立案できる能力を涵養することを目的とする。授業は基本的な知識を提供する講義形式に加えて、必要に応じて受講生同士でディスカッションや心理調査などの演習を行う形式で進める。				
【学修の到達目標】 本授業の到達目標は、以下の2点である。 (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解する。 (2) 犯罪や非行の原因を社会心理学の視点から理解する。 (3) 犯罪や非行を抑止・予防する視点を学ぶ。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1. 全体ガイダンス：司法・犯罪心理学の歴史 2. 犯罪・非行と社会心理学 3. 刑事司法制度の詳細：成人 4. 刑事司法制度の詳細：未成年 5. 犯罪統計を活用した犯罪研究 6. 犯罪・非行の生物学的原因 7. 犯罪・非行の心理学的原因 8. 犯罪・非行の社会学的原因 9. 犯罪機会論 10. 司法・犯罪領域の心理学的アセスメント 11. 犯罪者・非行少年の処遇 12. 犯罪捜査と社会心理学：プロファイリング 13. 犯罪捜査と社会心理学：取調べ 14. 犯罪予防と社会心理学 15. 本授業の総括と知識確認				

【将来像】

犯罪や非行の抑止・予防に関する社会心理学的視点は、予防医学や疫学と通ずる面がある。したがって、犯罪や非行の抑止・予防に関する社会心理学の考え方を通して、特定に問題への予防施策を立案し、それを実証的に検証する視点を持てることを期待する。

【その他】

初回の授業でガイダンスを行うほか、不明な点は授業代表教員に問い合わせること。

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	実験心理学特論Ⅱ	阿部 恒之 教授	2
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他（討議あり） 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開講期間		2019年4月10日（水）～2019年7月24日（水）		
曜日・時間		水曜日・1講時（8時50分～10時20分）		
キャンパス・建物		川内南キャンパスF棟		
講義室等名称		311講義室		
授業代表教員		教授 阿部恒之（文学研究科）		
【授業の目的と概要】 未来型医療プログラム「実験心理学特論Ⅱ」は、感情と人格に関する心理学的な知識を学ぶとともに、化粧が心身にもたらす作用について、歴史的観点などを踏まえて総合的に理解することを目指す。病から平常、すなわちマイナスからゼロへの復帰としての医療の次の一歩となる、ゼロからプラスへの可能性について考える契機としてほしい。				
【学修の到達目標】 「実験心理学特論Ⅱ」では、心理学の基礎となる感情・人格の理論を学ぶ。同時に、化粧という身近な行動が、日常生活における感情調節装置として機能しているという主張を構成する多様な研究を学び、対象を深く理解するため方法論を身に着ける。				
【授業の内容・方法と進度予定】 「ストレスと化粧の社会生理心理学（フレグランスジャーナル社）」を教科書として用いる。この教科書の構成に沿って、要点を投影しながら解説する。教科書を活用し、十分な予習・復習をしながら授業に臨んで欲しい。 この授業には、文系・理系の多様な学生が受講すると思われるので、討議を通じて自らと異なる領域の学生の考え方に触れてもらう。				
【将来像】 化粧という一つの題材を、総合的に理解するために行われた多角的な研究に触れることで、自らの研究テーマを多角的に検討し、未来の医療に挑戦するための方法論を身に着けてほしい。				
【その他】 教科書として次の書籍を用いる。 阿部恒之（2002）. ストレスと化粧の社会生理心理学 フレグランスジャーナル社 （ISBN：9784894790582）				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	文学 研究科	実験心理学特論 III	坂井 信之 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月2日(水)～2020年1月28日(水)			
曜日・時間	水曜日・ 3講時(13時00分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・文学研究科棟			
講義室等名称	311 教室			
授業代表教員	教授 坂井信之(文学研究科)			
【授業の目的と概要】 この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。				
【学修の到達目標】 ヒトの情報の取捨選択、意思決定、主観的幸福感などがどのような脳の仕組みで支えられているかについて理解することができるようになる。文系の学生が、最新の脳科学の知識を得るための基盤的な知識を養う。				
【授業の内容・方法と進度予定】 業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。				
【将来像】 本講義の習得により、人文社会科学における神経科学の基本・大枠をつかみ、各受講生の経歴や研究内容に基づく思考を取り入れ、研究テーマの実現と未来の医療に挑戦することを期待する。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	文学 研究科	実験心理学研究演習 III	坂井 信之 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月10日(水)～2019年8月7日(水)			
曜日・時間	水曜日・ 3講時(13時00分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・文学研究科棟			
講義室等名称	337教室			
授業代表教員	教授 坂井信之(文学研究科)			
【授業の目的と概要】 この授業では最初に与えられた文献(専門書)を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。				
【学修の到達目標】 ① ヒトの主観的幸福感や情報の取捨選択、意思決定に関する文理融合領域の研究方法を体系的に修得する。 ② 様々な領域の研究者・学生に自身の学術的スタンスから正しく伝える能力を養成する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 最初に与えられた英語の専門書(Neuroeconomics)を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。				
【将来像】 本演習の習得により、人文社会科学における神経科学の基本・大枠をつかみ、各受講生の経歴や研究内容に基づく思考を取り入れ、研究テーマの実現と未来の医療に挑戦することを期待する。				
【その他】 予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	実践宗教学特論Ⅰ	谷山 洋三 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月8日(月)～2019年7月29日(月)			
曜日・時間	月曜日・ 2講時(10時30分～)			
キャンパス・建物	文学研究科			
講義室等名称				
授業代表教員	教授 谷山洋三(文学研究科)			
【授業の目的と概要】 スピリチュアルケアは、緩和ケア領域ではその必要性が理解されているが、本来は医療に限らず広く人間の健康にかかわるものである。この授業では、公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法を理解する				
【学修の到達目標】 テキストに基づいてケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める				
【授業の内容・方法と進度予定】 第1回：オリエンテーション 第2回：チャプレンとビハーラ僧 第3回：「臨床宗教師」の誕生 第4回：生活の中にある心のケア 第5回：スピリチュアルペイン 第6回：スピリチュアルな探求 第7回：「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア 第8回：「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア 第9回：宗教的資源の活用 第10回：宗教的ケア 第11回：臨床宗教師の可能性 第12回：臨床宗教師の資質 第13回：ワークショップ「死の体験」 第14回：ワークショップ振り返り 第15回：まとめ				
【将来像】 スピリチュアルケアについて、緩和ケアという狭い枠にとらわれずに、また、宗教性との関係性にも留意して学ぶことで、未来型医療における可能性を創造してほしい。				
【その他】 教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年 参考書：鎌田東二編『講座スピリチュアル学第1巻 スピリチュアルケア』ビーイング・ネット・プレス、2014年				

コ－	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	実践宗教学特論Ⅱ	谷山 洋三 教授	2
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開講期間		2019年10月7日(月)～2020年1月27日(月)		
曜日・時間		月曜日・ 2講時(10時30分～)		
キャンパス・建物		文学研究科		
講義室等名称				
授業代表教員		教授 谷山洋三(文学研究科)		
【授業の目的と概要】 臨床宗教師のモデルである欧米のチャプレン制度とその源泉となる思想を概観し、軍隊、刑務所、学校、病院などでの実践とその意義を考察する。国内での臨床宗教師の活動、寺社教会での宗教的資源を活用したケアの可能性も検討する。また、体験的ワークによりケア実態の理解を深める。				
【学修の到達目標】 臨床宗教師が提供する宗教的ケアについて、その理念と方法を理解する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 第1回：オリエンテーション 第2回：スピリチュアルケアの歴史 第3回：宗教、哲学、心理学の視点 第4回：社会学、健康学の視点 第5回：ペインとケア 第6回：ケアの方法 第7回：ケーススタディ 第8回：ケア提供者の資質 第9回：欧米のチャプレン制度(1) 軍隊 第10回：欧米のチャプレン制度(2) 病院 第11回：欧米のチャプレン制度(3) 刑務所、学校 第12回：日本での宗教的ケアの可能性 第13回：ワークショップ「ペットロスと読経」 第14回：ワークショップ振り返り 第15回：まとめ				
【将来像】 スピリチュアルケアと宗教的ケアは特殊なものではなく、墓参りや仏壇・神棚での礼拝のように、日常的に実践されてきたものだという視点を得ることにより、未来型医療における可能性を創造してほしい。				
【その他】 教科書：窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書店、2008年 参考書：葛西健太ほか編『ケアとしての宗教』明石書店、2013年 谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	実践宗教学特論Ⅲ	高橋 原 教授 大村哲夫 准教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開 講 期 間	2019年4月10日(水)～2019年7月24日(水)			
曜 日 ・ 時 間	水曜日・5講時(16時20分～)			
キャンパス・建物	文学研究棟			
講義室等名称				
授業代表教員	教授 高橋 原 (文学研究科)			
【授業の目的と概要】 グリーフケアに関する文献を読み、現代人の生活の諸局面に現われる悲嘆とそのケアの方法と問題点について基礎的な知識を得る。				
【学修の到達目標】 悲嘆を抱える人々に対してどのような方法で接することがケアという観点から有効であるのか、事例を踏まえて理解する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 高木慶子編『グリーフケア入門』（勁草書房2012）をメインのテキストとして、毎回その中から一章、または別に指定する論文を読んでいく。毎回発表担当学生を決めて行なう。 (1)イントロダクション グリーフケアとは何か？ (2)実践編1 災害時のグリーフケア (3)実践編2 遺族会とグリーフケア (4)実践編3 日本社会の伝統的なグリーフケア (5)理論編1 グリーフケアの基盤としてのスピリチュアルケア (6)理論編2 臨床心理学における悲嘆 (7)理論編3 グリーフケア研究の動向 (8)人材養成編1 グリーフケア提供者を目指す人たち (9)人材養成編2 臨床宗教師の養成 (10)グリーフケアと宗教1 (11)グリーフケアと宗教2 (12)グリーフケアと宗教3 (13)グリーフケアと宗教4 (14)グリーフケアと宗教5 (15)まとめと展望				
【将来像】 グリーフケアという観点から、長高齢多死と言われる時代の人間の生き方を再考して欲しい。				
【その他】 授業日程や進め方については初回に説明する。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学研究科	実践宗教学特論Ⅳ	高橋 原 教授 大村哲夫 准教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開 講 期 間	2019年10月9日(水)～2020年1月22日(水)			
曜 日 ・ 時 間	水曜日・5講時(16時20分～)			
キャンパス・建物	文学研究棟			
講義室等名称				
授業代表教員	教授 高橋原(文学研究科)			
【授業の目的と概要】 宗教者が医療者と連携しながらケア従事者の役割を果たすために何が必要なのか。生老病死をめぐる現代日本社会の諸状況を踏まえて課題と可能性を学ぶ。				
【学修の到達目標】 さまざまな実践例から、ケアの諸相を理解し、現代日本社会が直面している問題について理解する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者を招いて行なうオムニバス形式。 各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。 以下のような内容を想定しています。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床宗教師の理念 2. グリーフケアと宗教 3. カフェ・デ・モンク(宗教者による被災地支援の実情) 4. スピリチュアルケアと宗教的ケア 5. 終末期医療と宗教者 6. 臨床心理学と宗教 7. 民間信仰論 8. 宗教間対話 9. 臨床宗教師の実践報告(1) 10. 臨床宗教師の実践報告(2) 11. 臨床宗教師の実践報告(3) 12. 臨床宗教師の実践報告(4) 13. 臨床宗教師の実践報告(5) 14. 臨床宗教師の実践報告(6) 15. 臨床宗教師の実践報告(7) 				
【将来像】 医療者、宗教者等の多職種連携によるケアのあり方が、未来の社会においてどのように実現可能であり、自分にどのような貢献ができるのか、ヴィジョンを描いてもらいたい。				
【その他】 授業日程や進め方については初回に説明する。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	文学 研究科	死生学特論Ⅲ	竹之内裕文 教授 (非常勤講師)	2
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開 講 期 間		2019年9月24日(火)～2019年9月27日(金)		
曜 日 ・ 時 間		集中講義 (2限～5限)		
キャンパス・建物		文学研究棟		
講義室等名称				
授業代表教員		教授 高橋原 (文学研究科)		
【授業の目的と概要】 なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援ア、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいかを考察する。				
【学修の到達目標】 死生学の基本概念を学び、現代生活における生と死の問題について理解を深める。 ①対話スタイルで進められる講義を通して、対話的探究の楽しさと可能性を身をもって学び、対話の精神と技法を習得する。 ②テキストや他の受講者との対話を通して、死とともに生きる自分なりの知恵を身につける。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1) ガイダンス：講義の目的と進め方、導入としてのもしバナゲーム 2) テキストをめぐる対話① ある死別の経験から (序章) 3) テキストをめぐる対話② 重度障害者自立ホームから (第1章) 4) 死生学カフェ① 5) テキストをめぐる対話③ 在宅緩和ケアの現場から (第2章) 6) テキストをめぐる対話④ 死者と共にある農村との出会い (第3章) 7) テキストをめぐる対話⑤ いのちにあずかって生き、死ぬ (第4章) 8) 死生学カフェ② 9) テキストをめぐる対話⑥ 共に生きること、本当に生きること (第5章) 10) テキストをめぐる対話⑦ 森と湖の国の「福祉」 (第6章) 11) テキストをめぐる対話⑧ ホスピス運動の源流を辿る (第7章) 12) 死生学カフェ③ 13) テキストをめぐる対話⑧ 死とともに生きることを学ぶ～哲学と対話 (終章) 14) 死生学カフェ④ 15) 死生学カフェ⑤				

【将来像】

死生学の視点から未来の医療や福祉を豊かなものとする方策を考えてもらいたい。

【その他】

竹之内裕文『死とともに生きることを学ぶ 死すべきものの哲学をもとめて』（ポラーノ出版、2019年6月刊行予定）をテキストとして使用します。

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	教育学 研究科	臨床心理学講義Ⅰ (臨床心理学概論)	若島 孔文 准教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月 1日(火)～2020年1月28日(火)			
曜日・時間	火曜日・ 5講時(16時20分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス 教育学研究科(文科系総合研究棟)			
講義室等名称	206教室			
授業代表教員	准教授 若島孔文(教育学研究科)			
【授業の目的と概要】 臨床心理学における代表的諸理論(精神分析、来談者中心療法、認知・行動療法、家族療法など)について改札する。また、それら代表的諸理論の日本への導入における東北大学の役割と貢献について補足する。				
【学修の到達目標】 ①臨床心理学が人間を理解し、援助することを志向した実践の学問であることを知り、人間のこころの固有性と可変性に対する柔軟な視点について理解を深めること。 ②東北大学の歴史の一端を知り、臨床心理学の大きな流れに向けて興味が喚起されること。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1. ～ 2. 「野に医者」と臨床心理学の流れ 3. ～ 5. 精神分析・分析心理学 6. 来談者中心療法 7. ～ 8. 認知・行動療法 9. ～ 10. システム理論とコミュニケーション理論 11. 家族療法のモデル 12. 解決志向短期療法 13. ナラティブセラピー 14. ～ 15. 事例の検討				
【将来像】 文理融合の理念から、臨床心理学の基本を理解し、各受講生の研究テーマの実現と未来の医療の構築に貢献することを期待する。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	教育学 研究科	臨床心理学講義Ⅱ (精神疾患とその治療)	上 埜 高 志 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開 講 期 間	2019年4月11日(木)～2019年8月1日(木)			
曜 日 ・ 時 間	木曜日・ 1 講時 (8 時 50 分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス 教育学研究科 (文科系総合研究棟)			
講義室等名称	206 教室			
授業代表教員	教授 上埜高志 (教育学研究科)			
【授業の目的と概要】				
メンタルヘルスの概要を理解するとともに、代表的な精神疾患等を学ぶ。				
【学修の到達目標】				
メンタルヘルスおよび代表的な精神疾患等に関する基礎的な知識を習得する。				
【授業の内容・方法と進度予定】				
1.オリエンテーション、メンタルヘルス序論(1)－概要、福祉 Introduction- Welfare 2.メンタルヘルス序論(2)－医療 Introduction - Medicine 3.メンタルヘルス序論(3)－心理 Introduction - Psychology 4.メンタルヘルス序論(4)－社会 Introduction - Society 5.こころと発達－自閉症 Autism 6.こころとリズム－睡眠障害 Sleep Disorders 7.こころと不安－神経症 Neurosis 8. こころと物質－依存症 Dependence 9. こころと災害－PTSD、こころと死－自殺 Suicide 10. こころとスティグマ－統合失調症 Schizophrenia 11. こころとライフイベント－うつ病 Depression 12. こころと加齢－認知症 Dementia 13.「スピーカーズビューロー」(当事者 [統合失調症・うつ病] による体験発表) (予定) Speaker's Bureau (Schizophrenia, Depression) 14.討論「こころと脳について」(レポートのテーマ) Discussion “ Mind-Body Problem” 15.総括、筆記試験 (英語を含む) Examination				
【将来像】				
文理融合の理念から、臨床心理学の基本を理解し、各受講生の研究テーマの実現と未来の医療の構築に貢献することを期待する。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	教育学研究科	心理学的支援法	加藤道代教授・安保英勇准教授・若島孔文准教授・吉田沙蘭准教授・砂川芽吹助教・前田駿太助教	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月7日(月)～2020年2月3日(月)			
曜日・時間	月曜日・ 4講時(14時40分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス 教育学研究科(文科系総合研究棟)			
講義室等名称	206教室			
授業代表教員	准教授 吉田沙蘭(教育学研究科)			
【授業の目的と概要】 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習する。あわせて、訪問による支援や地域支援等の多様な形態による支援の方法、心理支援に際しての倫理的配慮等についても学習する。				
【学修の到達目標】 本授業の到達目標は、以下のとおりである。 ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる ・訪問による支援や地域支援の意義について概説できる ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける ・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる ・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる				
【授業の内容・方法と進度予定】 1. オリエンテーション 2. 心理学的支援の基礎 3-4. 精神分析療法・力動的心理療法 5-8. 行動療法、認知療法、認知行動療法 9. パーソンセンタード・アプローチ 10-12. 家族療法・集団療法 13. 子どもに対する心理療法 14. コミュニティ・アプローチ 15. 心の健康教育				
【将来像】 文理融合の理念から、臨床心理学の基本を理解し、各受講生の研究テーマの実現と未来の医療の構築に貢献することを期待する。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	教育学 研究科	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)	若島 孔文 准教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月1日(火)～2020年1月28日(火)			
曜日・時間	火曜日・ 6講時(18時00分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス 教育学研究科(文科系総合研究棟)			
講義室等名称	206教室			
授業代表教員	准教授 若島孔文(教育学研究科)			
【授業の目的と概要】 システム理論の視点から家族、集団、組織、地域社会への心理的援助について、その歴史と理論について考え、システムの動きを活用する方法、変化を導入するための実際について検討し、理解していく。				
【学修の到達目標】 ①臨床心理学における近年重要な発展領域である家族心理学の知識を得ること。 ②それらの知識を集団、組織、地域社会の問題に適用し、問題解決の見通し、見立てを得られるようになること。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1. ～ 4. 家族面接の理解(1)～(4) 5. コミュニケーション理論 6. システム理論 7. ～ 10. ワークによる家族面接(1)～(4) 11. ～ 12. 緊急時支援と組織・地域社会へのアプローチ(1)～(2) 13. ～ 15. 東北大学における家族研究と支援モデルの展開(1)～(3)				
【将来像】 文理融合の理念から、臨床心理学の基本を理解し、各受講生の研究テーマの実現と未来の医療の構築に貢献することを期待する。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	教育学研究科	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	上 堃 高 志 教授 前 田 駿 太 助教	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開 講 期 間	2019年10月3日(木)～2020年1月30日(木)			
曜 日 ・ 時 間	木曜日・ 1 講時 (8 時 50 分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス 教育学研究科 (文科系総合研究棟)			
講義室等名称	306 教室			
授業代表教員	教授 上堃高志 (教育学研究科)			
【授業の目的と概要】 精神医学および精神保健福祉に関する臨床的・実践的な事項について学ぶ。代表的な精神疾患等について、受講者がケーススタディとして発表し討論する。				
【学修の到達目標】 精神医学・精神保健および代表的な精神疾患等を理解する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1. オリエンテーション Introduction 2. 精神科医療 Psychiatric Care 3. 精神保健福祉 Mental Health and Welfare 4. 精神科診断－精神症状、診断基準、臨床検査 Diagnosis of Clinical Psychiatry 5. 精神科治療－精神療法、社会療法、身体療法 Treatment of Clinical Psychiatry 6. ケーススタディ①－統合失調症 Schizophrenia 7. ケーススタディ②－うつ病 Depression 8. ケーススタディ③－神経症 Neurosis 9. ケーススタディ④－発達障害 Development Disorders 10. ケーススタディ⑤－自殺 Suicide 11. ケーススタディ⑥－災害時のメンタルヘルス Mental Health in Disaster 12. ケーススタディ⑦－最近の事件 Recent Cases 13. 精神鑑定 Psychiatric Evaluation 14. スピーカーズビューロー (当事者 [統合失調症・うつ病] による体験発表) Speaker's Bureau (Schizophrenia, Depression) 15. 総括、筆記試験 (英語を含む) Examination				
【将来像】 文理融合の理念から、臨床心理学の基本を理解し、各受講生の研究テーマの実現と未来の医療の構築に貢献することを期待する。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	教育学 研究科	心の健康教育に関する理論と実践	安保 英勇 准教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月7日(月)～2020年2月3日(月)			
曜日・時間	月曜日・ 5講時(16時20分～)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス 教育学研究科(文科系総合研究棟)			
講義室等名称	202教室			
授業代表教員	准教授 安保英勇(教育学研究科)			
【授業の目的と概要】 心の健康教育に関する理論を学び、実践(ロールプレイおよび高等学校)を行う。				
【学修の到達目標】 心の健康教育に関する理論を説明できる。 集団の特性に合った心の健康教育を立案・実践できる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1.オリエンテーション 2.心の健康教育の理論と実践例の紹介(1) 3.心の健康教育の理論と実践例の紹介(2) 4.-15.受講生(グループ)による心の健康教育の理論と実践例の紹介 (このうち1-2回高等学校に出向き、実施する)				
【将来像】 文理融合の理念から、臨床心理学の基本を理解し、各受講生の研究テーマの実現と未来の医療の構築に貢献することを期待する。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	経済学 研究科	医療経済特論	湯田 道生 准教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月10日(水)～2019年7月17日(水)			
曜日・時間	水曜日・3講時(13時00分～14時30分)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・経済学部研究棟			
講義室等名称	第8演習室			
授業代表教員	准教授 湯田道生(経済学研究科)			
【授業の目的と概要】 This course provides basic theoretical backgrounds of the major topics of health economics and their microeconomic methods at the master level.				
【学修の到達目標】 Students will have learned representative methods in this field to understand leading-edge health economics researches by the end of the semester.				
【授業の内容・方法と進度予定】 The schedule of this course is as follows: #01 Introduction: Guidance and Review of microeconomics and econometrics at the undergraduate level #02 Health capital (Theory) #03 Health capital (Econometrics) #04 Health insurance (Theory 1) #05 Health insurance (Theory 2) #06 Health insurance (Econometrics) #07 Supplier-induced demand (Theory) #08 Supplier-induced demand (Econometrics) #09 Supply of medical services (Theory) #10 Supply of medical services (Econometrics) #11 Other health econometrics methods #12 Public finance of health insurance system (Theory) #13 Public finance of health insurance system (Econometrics) #14 Addiction (Theory & Econometrics 1) #15 Addiction (Theory & Econometrics 2)				
【将来像】				
【その他】 I presuppose that students have already gained the middle-level knowledge of microeconomics, macroeconomics, econometrics, and health economics.				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	経済学 研究科	加齢経済特論	吉田 浩 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月9日(火)～2019年7月16日(火)			
曜日・時間	火曜日・5講時(16時20分～17時50分)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・経済学部研究棟			
講義室等名称	第8演習室			
授業代表教員	教授 吉田浩(経済学研究科)			
【授業の目的と概要】 (1) The effect of aging on public finance, social welfare, public pension, and long term nursing care; (2) Demand for children, labor supply, generational equity. We discuss these issues basing on the theory of Neoclassical economics. 高齢社会の諸問題を近代経済学の知見で分析すること				
【学修の到達目標】 You will have the ability for analyzing the issues of aging using modern economic theory.				
【授業の内容・方法と進度予定】 (1) Economics of population aging, demand for children, economics of gender; (2) Generational equity using the Generational Accounts; (3) Economics of Household, time allocation, life time optimization; (4) Economic effect of public pension. 公的年金、介護保険、少子化問題、家計の行動、世代会計など				
【将来像】				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	経済学 研究科	財政特論	佐々木 伯朗 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月11日(木)～2019年7月18日(木)			
曜日・時間	木曜日・2講時(10時30分～12時00分)			
キャンパス・建物	川内南キャンパス・経済学部研究棟			
講義室等名称	第1演習室			
授業代表教員	教授 佐々木伯朗(経済学研究科)			
【授業の目的と概要】 Public sector is one of the economic organizations which show large difference between countries. Using basic economic theories, this course will deal with roles of the public sector in the economy, fiscal differences between Japan and other countries, and how these differences emerged. In addition, how to provide social services in recent severe fiscal conditions will be discussed.				
【学修の到達目標】 To understand normative economic roles of the public sector and allocation of the roles among each part of the public sector. To know the fiscal character of Japan's public sector and its difference from other countries. To understand various forms of providing social services and fiscal contributions to the services in each country.				
【授業の内容・方法と進度予定】 1) Introduction 2) History of Public Finance and its Theory 3) Three Economic Role of the Public Sector: Resource Allocation 4) Three Economic Role of the Public Sector: Income Redistribution 5) Three Economic Role of the Public Sector: Economic Stabilization 6) Fiscal Federalism: How to Assign the Three Functions among Different Levels of Governments in a Country? 7) Critiques of the Theory of three functions 8) Midterm test 9) Welfare States and Privatization: History of Modern Public Finance 10) Japan's Fiscal Character: Revenue, Expenditure, Fiscal Relationship between Central and Local Governments 11) Basic Theory of Economic Organizations: Institutional Economics, Comparative Analysis of Institutions, Some Critics				

- 12) Third Sector in the Economy: Nonprofit Organizations, Social Enterprises, Three Economic Sectors and Welfare Mix, Real Entities of Third Sector in the Economy.
- 13) Comparing Social Services between Japan and Other Countries: Public Pensions and Its Finance
- 14) Comparing Social Services between Japan and Other Countries: Medical Care and Elderly Care
- 15) Conclusion: Differences between Japan and Other Welfare States, State and Region, Institutional Reasons

【将来像】

【その他】

For clear understanding, it is recommended to have knowledge of basic micro and macroeconomics in undergraduate level.

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	医学系 研究科	社会・環境医学	藤森 研司 教授	2
授業形態	<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> I S T U [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年 月 日 () ~ 年 月 日 ()			
曜日・時間	随時			
キャンパス・建物	【ISTU】ネットワーク環境とPCがあればどこでも受講可能			
講義室等名称	—			
授業代表教員	教授 藤森研司 (医学系研究科 医療管理学分野)			
【授業の目的と概要】 社会・環境医学の基本概論ならびに最新的话题を提供する。				
【学修の到達目標】 各分野が提供する社会・環境医学に関する基本的知識及び考え方を習得する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 オムニバス形式 全13回 (担当分野、教員、講義内容) ・公衆衛生学 辻 一郎 疫学入門 ・公衆衛生学 寶澤 篤 疫学研究デザインの作成 ・公衆衛生学 西野善一 症例対照研究 ・分子疫学 栗山進一 コホート研究 ・医学統計学 中谷直樹 医学統計学序論 ・医学情報学 中山雅晴 医療情報学 ・環境保健医学 赤池孝章 環境生体応答論 ・環境保健医学 赤池孝章 分子予防医学 ・環境保健医学 黒川修行 メタ・アナリシスについて ・医療管理学 藤森研司 医療政策 ・医療管理学 桜澤邦男 医療経済学 ・法医学 舟山真人 小児急死 ・医療倫理学 浅井 篤 医療倫理学				
【将来像】 研究の基盤として、医療を取り巻く社会医学的、環境医学的な基礎を身に付け、広い視野を持って各方面で活躍することが期待される。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	医学系 研究科	先端臨床医学 (Advanced Clinical Medicine)	臨床各分野の教員	2 単位
授業形態		<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> ■ I S T U (<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部) <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開 講 期 間		2019 年 4 月 1 日 (月) ~ 2020 年 1 月 31 日 (金)		
曜 日 ・ 時 間		【ISTU】毎日 24 時間開講		
キャンパス・建物		【ISTU】ネットワーク環境と PC があればどこでも受講可能		
講義室等名称		【ISTU】ネットワーク環境と PC があればどこでも受講可能		
授業代表教員		教授 下川宏明 (循環器内科学分野) 連絡先 7153 (内線)		
【授業の目的と概要】 臨床医学における各分野の研究及び臨床につき理解をする。特に、先進的研究やトピック、さらに、その研究に至るまでの科学的な思考過程などを理解する。				
【学修の到達目標】 臨床医学の観点から科学的な考え方を身につけ、臨床研究や基礎研究へ更に発展する能力を身につける。				
【授業の内容・方法と進度予定】 ISTU による授業で随時聴講可能である				
【将来像】 先進的研究やトピック、さらに、その研究に至るまでの科学的な思考過程などを理解できるようになる。				
【その他】 成績評価方法 提出された ISTU 受講レポートの内容により評価する。(15 回分選択して記入) ISTU 受講後は「ISTU 受講レポート」(グループウェアよりダウンロード可)を作成し、すべての講義受講後に教務課大学院教務係へ提出すること。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	医学系 研究科	医学研究方法論 Study Design for Researches on Medical Sciences	(医)押谷仁教授 Prof. Hitoshi Oshitani (医)Clyde Dapat 講師 Sr.Asst.Prof. Clyde Dapat (医)土屋菜歩講師 Sr.Asst.Prof. Naho Tsuchiya (医) 中川直助教 Asst. Prof. Tadashi Nakagawa	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語]			
開 講 期 間	2019年4月11日(木)～7月18日(木) April 11 – July 18, 2019			
曜 日 ・ 時 間	木曜日 17:00～18:30 Thursday 17:00 – 18:30			
キャンパス・建物	星陵キャンパス・教育研究基盤支援棟 2階 2F, Education and Research Base Support Building, Seiryō Campus			
講義室等名称	第1セミナー室 Seminar Room 1			
授業代表教員	教授 押谷 仁 (医学系研究科) Prof. Hitoshi Oshitani (Graduate School of Medicine)			
【授業の目的と概要】 Aim and outline This is a course for beginners in medical research and those who want to strengthen up academic writing in the field of medical research. Through this course, students will study the basic concepts of research in medical science, systemic reviews and how to formulate research question. By familiarizing with study design in basic medical research and epidemiological research, statistics method, and academic writing, students would be able to present a successful study proposal at the end of the course. Furthermore, we welcome all Japanese students who wish to practice scientific discourse in English to join this course.				
【学修の到達目標】 Objectives - To learn the basic concepts of medical science research - To be able to write a study proposal at the end of the course - To learn the basic skills in academic writing - To be able to make scientific discussion with other students in English				
【授業の内容・方法と進度予定】 Schedule (May be adjusted) Apr-11 Basic concept of medical sciences research Apr-18 Systematic reviews and research question (1) Apr-25 Systematic reviews and research question (2) May-09 Study design in epidemiological research (1) May-16 Study design in epidemiological research (2)				

May-23	Study design in basic medical research (1)
May-30	Study design in basic medical research (2)
Jun-06	Statistics in medical research (1)
Jun-13	Statistics in medical research (2)
Jun-20	Academic and grant proposal writing (1)
Jun-27	Academic and grant proposal writing (2)
Jul-04	Academic and grant proposal writing (3)
Jul-11	Study proposal presentation (1)
Jul-18	Study proposal presentation (2)

【成績評価方法】 Evaluation

Attendance, written and oral presentation of study proposal, and class participation

【その他】 Remarks

Students are required to submit not only the class assignments but also to read the assigned materials in advance. Students are encouraged to consult their instructors if they have problems regarding any materials discussed in the class.

Please contact us by e-mail if you have any questions.

Sr. Asst. Prof. Clyde Dapat: clyde@med.tohoku.ac.jp

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	医学系 研究科	医薬・歯学系分子イメージング トレーニング	(医) 谷内一彦教授 (医) 田代 学教授 (薬) 古本祥三教授 (医工) 渡部浩司教授	6
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他 (実習トレーニング) 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開 講 期 間	通年			
曜 日 ・ 時 間	集中			
キャンパス・建物	青葉山キャンパス・サイクロトロンRIセンター (CYRIC)			
講義室等名称	CYRIC 分子イメージング棟、その他放射線管理区域内			
授業代表教員	教授 谷内 一彦 (医学系研究科 機能薬理学分野) 連絡先 8055 (内線)			
【授業の目的と概要】 「医学・歯学系分子イメージング・トレーニング」は、主に PET に関連した演習やトレーニングを行う。実際にポジトロン放出核種を用いて、プラナー・イメージング装置 (PPIS)、小動物用 PET/CT、ヒト研究用 PET を用いて、小動物からヒトまでの分子イメージング研究の実際を理解することを目的とする。これらの最新科学を利用した研究を自ら行い発展させるために、放射線医学、核医学、薬理学、腫瘍医学、精神医学など最新医学と歯学との領域からの学際的トレーニングを行い、さらに放射線医学総合研究所との連携を生かして教育を行う。				
【学修の到達目標】 医学・歯学系分子イメージングは特に医歯学領域での診断法の開発に重点を置き、工学領域での機器開発や薬学領域での分子プローブの開発にも積極的に関与しながら医学・歯学の視点から幅広く分子イメージングの最先端を理解して、医学・医療への発展・応用力を身に付ける。				
【授業の内容・方法と進度予定】 希望受講者に事前に内容を提示する。				
【将来像】 分子イメージング研究を自ら実践し、PET 研究・PET 診療を展開できる医療関係者。				
【その他】 放射線取り扱い資格とサイクロトロン RI センターの使用資格が望ましい。 詳細は HP 参照 (http://www.miec.umin.jp/index.html) 特別セミナーへの参加により振り替える場合は、特別セミナー参加時に指定様式「履修振替簿」(所定様式あり。グループウェアよりダウンロード可)を持参し、担当講師から確認印を受けること。講義がすべて終了したら「履修振替簿」を教務課大学院教務係へ提出すること。ISTU 受講後は「ISTU 受講レポート」(所定様式あり。グループウェアよりダウンロード可)を作成し、すべての講義受講後に教務課大学院教務係へ提出すること。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	医学系研究科	工学系分子イメージング トレーニング	(医) 谷内一彦教授 (医) 田代 学教授 (薬) 古本祥三教授 (医工) 渡部浩司教授 (工) 志田原美保講師	6
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他 (実習トレーニング) 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開 講 期 間	通年			
曜 日 ・ 時 間	集中			
キャンパス・建物	青葉山キャンパス・サイクロトロンRIセンター (CYRIC)			
講義室等名称	CYRIC 分子イメージング棟、その他放射線管理区域内			
授業代表教員	教授 谷内 一彦 (医学系研究科 機能薬理学分野) 連絡先 8055 (内線)			
【授業の目的と概要】 「工学系分子イメージング・トレーニング」は、PET分子イメージングの工学的開発に関連した演習やトレーニングを行う。小動物用プランナー・イメージング装置 (PPIS)、小動物用 PET/CT (Clairvivo)、半導体小動物用 PET (fine PET)、ヒト研究用全身 PET、PEM (positron emission mammography) を用いて、モデル解析や機器開発の実際を理解することを目的とする。これらの最新機器を利用した工学的研究を自ら行い発展させるために、医・歯・薬・工学領域からの学際的トレーニングを行い、放射線医学総合研究所との連携を生かして教育を行う。				
【学修の到達目標】 工学系分子イメージングは、工学領域での機器開発やモデル解析に重点を置き、薬学領域での分子プローブの開発や医歯学領域での診断法の開発にも積極的に関与しながら、工学の視点から幅広く分子イメージングの最先端を理解して、医学・医療機器開発への応用力を身に付ける。				
【授業の内容・方法と進度予定】 希望受講者に事前に内容を提示する。				
【将来像】 分子イメージング研究を自ら実践し、PET研究や機器開発できる医療工学者。				
【その他】 放射線取り扱い資格とサイクロトロンRIセンターの使用資格が望ましい。 詳細は HP 参照 (http://www.miec.umin.jp/index.html) 特別セミナーへの参加により振り替える場合は、特別セミナー参加時に指定様式「履修振替簿」(所定様式あり。グループウェアよりダウンロード可)を持参し、担当講師から確認印を受けること。講義がすべて終了したら「履修振替簿」を教務課大学院教務係へ提出すること。ISTU受講後は「ISTU受講レポート」(所定様式あり。グループウェアよりダウンロード可)を作成し、すべての講義受講後に教務課大学院教務係へ提出すること。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	医学系 研究科	機械学習・人工知能	植田 琢也教授 株式会社キカガク教官 (非常勤講師)	2
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> ISTU [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他 (自宅プログラミングアサインメント) 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開講期間		2019年5月9日(木)～2019年7月25日(木)		
曜日・時間		木曜日・3・4講時(13:00-14:30, 14:40-16:10)		
キャンパス・建物		医学部6号館1F		
講義室等名称		カンファレンスルーム1(5/9, 6/6, 20, 7/11, *7/25) *7/25のみ医学部1号館第一講義室となります。		
授業代表教員		教授 植田 琢也(医学系研究科)		
【授業の目的と概要】 データサイエンティストでない医療従事者が、未来型医療のkeyとなる深層学習の基本的概念を学ぶ。				
【学修の到達目標】 機械学習・深層学習の基本概念を理解する 数理的・統計学的背景を理解する 必要なプログラミングの基礎を学ぶ				
【授業の内容・方法と進度予定】 ・オンラインでの事前学習(ISTUでのビデオ視聴) 機械学習概要・必要な数学・統計学知識・プログラミング初歩 ・オムニバス講義(90分×2コマ×4回) オンライン学習の復習・機械学習実践・機械学習画像処理 ・プログラミング課題(講義後のアサインメント)				
【将来像】 本科目受講後、「機械学習・人工知能」の基本的概念と実用化の方法を理解することで、自身も基本的な機械学習の実装を行えるとともに、機械学習専門家と医療者との研究協力を行ううえでの橋渡しとなれる人材となることを期待します。医療分野で有効に活用できる「機械学習・人工知能」を用いた研究の企画立案の中心となれる人材の育成を目指します。				
【その他】 実際の履修内容の詳細については、入学当初のガイダンスや指導教員に従ってください。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	医学系研究科	アンメットメディカルニーズ に対する創薬研究	段、内田、大島、平塚、 菊地、大島、谷口、谷 津、石川、田谷	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年 月 日 () ~ 年 月 日 () 第2学期			
曜日・時間	曜日・ 講時 (時 分 ~) 未定			
キャンパス・建物	星陵キャンパス、医学系研究科5号館2階			
講義室等名称	東北大学メディシナルハブ			
授業代表教員	未来型医療創造卓越大学院 特任准教授 段 孝			
【授業の目的と概要】 バイオテクノロジーが進歩した現代に於いても、「薬」は必ずしも必要な領域で開発されているわけではない。Unmet medical needs (薬がないかあっても不十分な領域) やオープンファン薬 (治療対象数が数万人以下と少なく製薬企業が開発に取り組まない領域) など開発が期待されている分野は多い。本学では、大学が核となり、製薬企業などの多企業が参画する大型産学連携拠点であるオープンイノベーション戦略機構を設置し、「ライフサイエンス (未来型医療)」に取り組んでいる。本授業では、「創薬」の現状や問題を俯瞰し、新薬を創出するための最新技術に対しての理解を深め、併せて画期的な新薬を我が国から創出するインフラ (連携、支援等) に関しても議論したい。				
【学修の到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒト臨床試験迄の薬剤開発の過程を理解し、説明出来る。 ・ 薬剤開発の現状を理解し、その課題や問題を把握し、説明出来る。 ・ 薬剤開発の最新技術を理解し、説明出来る。 ・ 新薬を創出するための課題に関して、自らの調査結果に基づき考察し、他者と議論出来る能力を育む。 				
【授業の内容・方法と進度予定】 (1) 講義、受講者との対話、受講者による (文献) 調査、発表の順で授業を進める (2) OI 機構の担当者 (製薬企業 OB 等) や薬剤開発の最新技術に関わる研究者との対話を取り入れる。				
【将来像】 現在の医療においても Unmet medical needs が存在することを理解した上で、未来型の医療技術や個別化医療を開発し、未来型医療として世界に展開できる人材の育成を目標とする。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数																																				
D	医学系 研究科	基礎医学 IV	五十嵐 和彦 教授	1																																				
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]																																							
開講期間	2019年4月11日(木)～2019年6月6日(木)																																							
曜日・時間	毎週水曜日・ 2講時(10時30分～12時)																																							
キャンパス・建物	臨床中講堂																																							
講義室等名称	(臨床講義棟2階)																																							
授業代表教員	教授 五十嵐和彦(医学系研究科)																																							
【授業の目的と概要】 生命現象を分子に基づいて理解するために必要な生化学(Biochemistry)の基礎を身につける。特に、生体を構成する高分子やその代謝(合成や分解)に関する理解を深める。生化学研究に関わるデータについて概説する。																																								
【学修の到達目標】 タンパク質、糖、脂質、核酸について構造と機能を理解し、その生合成と分解の概略を把握する。生体がエネルギーを得て利用する過程の概略を把握する。																																								
【授業の内容・方法と進度予定】 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>講義日</th> <th>講師</th> <th>所属</th> <th>主題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月11日</td> <td>五十嵐和彦</td> <td>生物化学分野</td> <td>イントロ</td> </tr> <tr> <td>4月18日</td> <td>村山和隆</td> <td>医工学研究科(分子構造解析医工学分野)</td> <td>タンパク質</td> </tr> <tr> <td>4月25日</td> <td>勝岡史城</td> <td>東北メディカル・メガバンク(医化学)</td> <td>糖代謝</td> </tr> <tr> <td>5月9日</td> <td>武藤哲彦</td> <td>生物化学分野</td> <td>脂質代謝</td> </tr> <tr> <td>5月16日</td> <td>本橋ほづみ</td> <td>加齢医学研究所(遺伝子発現制御分野)</td> <td>エネルギー代謝</td> </tr> <tr> <td>5月23日</td> <td>落合恭子</td> <td>生物化学分野</td> <td>転写・クロマチン</td> </tr> <tr> <td>5月30日</td> <td>田中耕三</td> <td>加齢医学研究所(分子腫瘍学研究分野)</td> <td>DNA複製修復分配</td> </tr> <tr> <td>6月6日</td> <td>中山啓子</td> <td>細胞増殖制御分野</td> <td>がん・シグナル伝達</td> </tr> </tbody> </table>					講義日	講師	所属	主題	4月11日	五十嵐和彦	生物化学分野	イントロ	4月18日	村山和隆	医工学研究科(分子構造解析医工学分野)	タンパク質	4月25日	勝岡史城	東北メディカル・メガバンク(医化学)	糖代謝	5月9日	武藤哲彦	生物化学分野	脂質代謝	5月16日	本橋ほづみ	加齢医学研究所(遺伝子発現制御分野)	エネルギー代謝	5月23日	落合恭子	生物化学分野	転写・クロマチン	5月30日	田中耕三	加齢医学研究所(分子腫瘍学研究分野)	DNA複製修復分配	6月6日	中山啓子	細胞増殖制御分野	がん・シグナル伝達
講義日	講師	所属	主題																																					
4月11日	五十嵐和彦	生物化学分野	イントロ																																					
4月18日	村山和隆	医工学研究科(分子構造解析医工学分野)	タンパク質																																					
4月25日	勝岡史城	東北メディカル・メガバンク(医化学)	糖代謝																																					
5月9日	武藤哲彦	生物化学分野	脂質代謝																																					
5月16日	本橋ほづみ	加齢医学研究所(遺伝子発現制御分野)	エネルギー代謝																																					
5月23日	落合恭子	生物化学分野	転写・クロマチン																																					
5月30日	田中耕三	加齢医学研究所(分子腫瘍学研究分野)	DNA複製修復分配																																					
6月6日	中山啓子	細胞増殖制御分野	がん・シグナル伝達																																					
【将来像】 マルチオミックス解析のデータ分析評価などを行う上での基礎を修得して欲しい。																																								
【その他】 成績評価は出席とレポート(2回予定)による。講義内容について教科書や関連論文の精読が必要となる。要する時間は教育背景によって異なる。レポート(2回)作成には関連文献教科書の検討なども含めて十分な時間を充てること。																																								

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	医学系 研究科	分子・遺伝生物学Ⅰ (Molecular Biology and GeneticsⅠ)	中山 啓子 教授	1
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開講期間		2019年6月13日(木) 2019年7月4日(木)		
曜日・時間		木曜日・ 1講時(8時50分～)		
キャンパス・建物		医学系研究科		
講義室等名称				
授業代表教員		以下のとおり		
【授業の目的と概要】 分子生物学に関わる基礎的な知識を涵養すると同時に、各専門領域についての最先端の知見と研究手法を講義する。生体内において分子がどのように振る舞うのかを理解し、またそれがどのように破綻することが、病態として表出するのかを理解する。				
【学修の到達目標】 最新の分子生物学的な研究の意義について理解できる、分子生物学的な広範な知識を獲得し、また実験手法を理解することによって研究計画の立案できるようになる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 内容及び進度予定は以下のとおりである。				
6月 13日	8:50～ 10:40～	中山 啓子 教授 林 慎一 教授	ガイダンス・細胞周期制御 ステロイド ホルモン、核内受容体と癌	
6月 20日	8:50～ 10:40～	高橋 和広 教授 赤池 孝章 教授	ホルモンによる循環器系調節機構研究の新展開 酸化ストレスと生体のレドックス恒常性制御	
6月 27日	8:50～ 10:40～	千葉奈津子 教授 菅原 明 教授	ゲノムの不安定性と発がん ホルモン核内受容体と動脈硬化性病変	
7月 4日	8:50～ 10:40～	堂浦 克美 教授 山本 雅之 教授	組み畳み異常タンパク質の形質伝達性 酸素と医学	
【将来像】 分子生物学の基本知識と研究手法を知ることで、新たに見出された疑問に対して解決方法を自ら見出すことを目指すことを期待している。				
【その他】 出席とレポートによって成績評価 中山教授連絡先 8226(内線)(細胞増殖制御分野)				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	研究科	分子・遺伝生物学 II	阿部俊明教授、宮田敏男教授、後藤昌史教授、堂浦克美教授、福島浩平教授、有馬隆博教授、川瀬哲明教授、鈴木教郎准教授	1
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月3日(木)～2019年10月24日(木)			
曜日・時間	木曜日・1-2講時(8時50分～12時00分)			
キャンパス・建物	10/3 東北大学メディシナルハブ(5号館2階)、10/17 星陵オーデトリウム大会議室、10/10,24 第1講義室(医学部1号館1階)、			
講義室等名称	10/3 東北大学メディシナルハブ(5号館2階)、10/17 星陵オーデトリウム大会議室。10/10,24 第1講義室(医学部1号館1階)、			
授業代表教員	教授 阿部俊明(医学系研究科)			
【授業の目的と概要】 生体のさまざまな機能や病態は遺伝子情報を含めた分子レベルで理解が進み、創薬など新しい治療法がどんどん開発されている。その基盤ではデータや技術がどのような解析をされてきたか、そして、その結果どのように新しい治療法に応用してきたのか、現在の問題点などを含めて具体的なテーマごとにそれぞれの専門家が紹介する。この過程を学ぶことで、未来の医学や医療に応用できる知識を備えた人材を育成する。分子生物学、遺伝学など基礎的な知識を広く学習してもらうとともに、生命科学や生体機能維持がどのようになされてゆくかについて理解してもらう。				
【学修の到達目標】 分子生物学の基本的な部分を学び、生体の機能や反応に対する解析等を自分から計画を立案できる能力を身につける。				
【授業の内容・方法と進度予定】 各教員がそれぞれ専門領域の最新の授業を行なうので、各自ノートを取ること。講義タイトルに関しては下記参照。				
【将来像】 本授業で分子遺伝学などを基礎にした病態解析、治療法の確立などのながれを理解できることで、将来は医学や医療などの領域に幅広く対応できる人物像の基盤になれるようにする。				
【その他】 質問は随時受け付けます(特に授業終了後)。また、メールでも受け付けます。初回の授業はオリエンテーションの意味もあり必ず出席すること。 連絡事項あるいはレポートの提出先：阿部俊明 toshi@oph.med.tohoku.ac.jp オフィスアワーは水曜日 10:00-17:00 とする。事前に E-mail 等で連絡を取ること				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	医学系 研究科	免疫科学 Immunological science	石井 直人 教授	1
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月16日(火)～ 2019年7月2日(火)			
曜日・時間	火曜日・ 1講時(8時50分～ 10時20分)			
キャンパス・建物	星陵・教育研究基盤支援棟2階			
講義室等名称	第2セミナー室			
授業代表教員	教授 石井直人(医学系研究科)			
【授業の目的と概要】 免疫学および微生物学の基礎と病態を理解する。前半では病原体、感染症、ワクチンの基礎を学び、後半では免疫の正常と異常(アレルギーなど)を学ぶ。これらを通して、健康における免疫の重要性を理解する。 To learn the basic microbiology and immunology To learn the basic biology, etiology, and pathology for infection and immune disorders To understand the importance of immunity in human health.				
【学修の到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ● 病原微生物の種類、特徴について説明できる。 ● 免疫制御機構を多角的視野から概説できる。 ● アレルギー、自己免疫疾患の病態を説明できる。 ● 感染症疫学の基本を説明できる。 To explain the basic biology, etiology, and pathology for infection and immune disorders				
【授業の内容・方法と進度予定】 4月16日(火) 微生物学：概論(石井) General concept of microbiology, Prof. Ishii 4月23日(火) 微生物学：病原微生物とワクチン(神垣) Vaccines, Prof. Kamigaki 4月7日(火) 感染症疫学：感染症アウトブレイクと集団免疫(斎藤) Infection outbreak and herd immunity, Prof. Saito 5月14日(火) 免疫学：免疫学の基本概念1(石井) Basic concept of immunology 1, Prof. Ishii 5月21日(火) 免疫学：免疫学の基本概念2(石井) Basic concept of immunology 2, Prof. Ishii 5月28日(火) 免疫学：獲得免疫と自然免疫(奥山) Acquired immunity and innate immunity, Prof. Okuyama 6月4日(火) 免疫病態学：細胞性免疫と生体防御(小笠原) Cellular immunity, Prof. Ogasawara				

- 6月11日(火) 免疫病態学：アレルギー・自己免疫疾患（高井）
Allergy and autoimmunity, Prof. Takai
- 6月18日(火) 免疫病態学：移植免疫、HLAと疾患（石井）
Transplantation, HLA, Prof. Ishii
- 6月25日(火) まとめ・筆記試験（石井）
Paper examination, Prof. Ishii
- 7月2日(火) 予備日
Option

※成績は、筆記試験の得点と授業参加態度とを8:2の割合で考慮して決定する。
Evaluate on their points from the paper test (about 80%) and class participation (about 20%).

【将来像】

免疫を理解することで健康社会の実現につなげて欲しい。

【その他】

参考書 Janeway's 免疫生物学（原著第9版, 2019） 南江堂 8,500円
Reference book Janeway's Immunobiology (9th Ed, 2017) Garland Science

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	医学系研究科	行動医学特論Ⅰ,Ⅱ	福土 審 教授 金澤 素 准教授 村椿智彦 助教	各2単位
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> ISTU [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他() 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	Ⅰ：2019年4月11日(木)～2019年9月26日(木) Ⅱ：2019年10月3日(木)～2020年3月5日(木) (ISTU:2019年度システム更新作業終了後～2020年1月31日)			
曜日・時間	毎週木曜日 16:00～17:15			
キャンパス・建物	星陵キャンパス・医学部5号館8階			
講義室等名称	セミナールーム			
授業代表教員	教授 福土審 (医学系研究科 行動医学) 連絡先 8214 (内線)			
【授業の目的と概要】 行動医学は健康と疾病に関する学際的研究領域である。その目的は、行動科学、医学、生物学を発展かつ統合させ、疾病の予防、病因解明、診断、治療、機能回復を図ることにある。行動医学は心身医学とともに心理と身体の相互関係を追求する医学でもある。本授業では、具体的な研究データをもとに、行動医学の既存の概念と発見されつつある領野の境界を院生が見極めることを重視する。				
【学修の到達目標】 行動医学の基礎理論を理解する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動医学と神経科学 Behavioral Medicine and Neuroscience ・ 行動理論 Theory of Behavior and Learning ・ ストレスと視床下部の役割 Stress and Hypothalamus ・ ストレスと大脳辺縁系の役割 Stress and Limbic System ・ ストレスと内分泌系 Stress and Endocrine System ・ 交感神経系 Sympathetic Nervous System ・ 副交感神経系 Parasympathetic Nervous System ・ 内臓機能 Visceral Function ・ ストレス・情動・行動についての最新の知見 What's New in Stress Research 				
【将来像】 本講義を通して行動医学、心身医学ならびに脳神経科学に関する最先端の知識を理解することによって、未来型医療に導く問題解決能力を育成する。				
【その他】 本授業では、講義を基盤として、行動医学の基礎理論を理解することを重視する。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	医学系研究科	内部障害学特論Ⅰ&Ⅱ	上月正博教授・原田卓准教授・高橋珠緒助教・鈴木文歌助手	2
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開講期間	2019年4月15日(月)～2019年12月9日(月)			
曜日・時間	月曜日・ 講時 (15時00分～16:30)			
キャンパス・建物	星陵キャンパス			
講義室等名称	第一セミナー室(教育研究基盤支援棟(旧医学部仮設校舎)2階) ※11月18日、11月25日は講堂(6号館1階)			
授業代表教員	教授 上月 正博(医学系研究科 内部障害学分野) 連絡先 7353(内線)			
【授業の目的と概要】 大きく発展をとげている内部障害学の歴史と内容を概説し、さらに、障害科学・リハビリテーションにおける内部障害のリハビリテーションの原理と実際、その有効性を具体的に学ばせる。				
【学修の到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・内部障害の内容と身体障害者の中での頻度を理解する。 ・運動医学・運動処方出し方を理解する。 ・各種内蔵機能障害の病態の理解とリハビリテーションの実際について理解する。 				
【授業の内容・方法と進度予定】 <ul style="list-style-type: none"> ・内部障害学とは ・腎機能障害 ・膀胱、直腸、小腸機能障害 ・糖尿病、代謝障害 ・自律神経障害 ・肝臓機能障害 				
【将来像】 内部障害学の特徴と実際を把握し、内部障害者への理解を深めてもらう。さらに、より障害者・内部障害者が健常人とともに、自分らしく生きていける社会の構築に寄与してもらう。				
【その他】 教科書は使用しない。必要に応じて随時、参考文献を紹介する。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	医学系 研究科	看護学研究のための統計学	宮下光令	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月11日(木)～2019年7月18日(木)			
曜日・時間	木曜日・2講時(10時30分～12時00分)			
キャンパス・建物	星陵キャンパス・保健学科D棟			
講義室等名称	緩和ケア看護学分野研究室			
授業代表教員	宮下光令			
【授業の目的と概要】 医学・看護学論文を読む、看護学研究を実施するために必要な統計学の基礎的事項を講義、演習を通して理解し、実践できるようになる。				
【学修の到達目標】 医学・看護学論文を読む、看護学研究を実施するために必要な統計学の基礎的事項を理解し、実践できる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 第1回：4月11日 ガイダンス 第2回：4月18日 医学研究における統計学、データの型、データの記述、理論分布 第3回：4月25日 研究計画、コンピュータの利用、データ解析の準備 第4回：5月9日 統計解析の原理 第5回：5月16日 群間比較(連続データ、分類データ) 第6回：5月30日 (※) JMP 演習(JMPの使い方、単変量解析) 第7回：6月6日 2連続変数間の関係 第8回：6月13日 多変数間の関係 第9回：6月20日 (※) JMP 演習(多変量解析) 第10回：6月27日 生存時間解析、医学研究の日常問題、臨床試験、医学文献 第11回：7月4日 尺度の信頼性と妥当性、サンプルサイズ設計 第12回：7月11日 経時測定データの解析 第13回：7月18日 (※) JMP 演習(応用問題) ※上記は変更の可能性あり。				
【将来像】 量的データ分析の理論面を理解し、分析を実践できる研究者を養成する。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	医学系 研究科	看護倫理	朝倉 京子 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月9日(火)～2019年7月末日()			
曜日・時間	火曜日・4講時(14時40分～)			
キャンパス・建物	保健学科 A 棟			
講義室等名称	第一演習室			
授業代表教員	教授 朝倉京子(医学系研究科)			
【授業の目的と概要】 保健医療看護領域における倫理的意思決定に必要な学術的知識を習得し、倫理的感受性と道徳的推論能力を養い、倫理的意思決定を導く能力を身につける。				
【学修の到達目標】 1) 保健医療看護における倫理的課題にはどのような特徴があるのかを知る。 2) 倫理的意思決定を導くための倫理的原則について知る。 3) 看護実践における具体的な事例について、専門的な立場から解決する方法を習得する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1) 授業方法：プレゼンテーションと討議により進める。 2) 授業計画： 第1回：ガイダンス 第2～12回：指定の教科書をもとにして、看護職、特に専門看護師が解決すべき倫理的課題とその職責についてプレゼンテーションと討議をする。 3) 成績評価方法 出席状況、課題への取り組み状況(プレゼンテーション内容)、議論への参加などで総合的に評価する。 4) 教科書及び参考書 教科書：ヘルガ・クーゼ、「ケアリング；看護婦・女性・倫理」、日本看護協会出版				
【将来像】 実践に根ざした保健医療看護の倫理的原則とその現場での適用方法を理解できる				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	医学系 研究科	緩和ケア看護学特論Ⅰ	宮下光令	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月17日(水)～2019年6月19日(水)			
曜日・時間	水曜日・1・2講時(8時50分～12時00分)			
キャンパス・建物	星陵キャンパス・保健学科D棟			
講義室等名称	緩和ケア看護学分野研究室			
授業代表教員	宮下光令			
【授業の目的と概要】 がん患者に対する緩和ケアの基礎理論について講義と演習を行う。がん患者に対する緩和ケアの理論とその活用を中心に、疼痛をはじめとした身体症状、精神症状、社会的問題、スピリチュアルな問題の緩和とその看護について探求する。さらに、緩和ケアにおける倫理的問題についても探究する。これらを通して、がん看護における様々な場面において理論を患者・家族への看護ケアに発展させるための方法を習得する。				
【学修の到達目標】 1) 緩和ケアの現状とわが国の緩和ケア看護学に関する医療システムを理解する。 2) がん患者の身体・精神症状についてその病態、治療、看護について探求し、理論および患者のアセスメントから具体的な看護を展開する方法を習得する。 3) がん患者の社会的・スピリチュアルな問題についてそのアセスメント、看護について探求し、理論および患者のアセスメントから具体的な看護を展開する方法を習得する。 4) 緩和ケアにおける倫理的問題について探究し、倫理的問題へのアプローチの方法論を学ぶ。				
【授業の内容・方法と進度予定】 第1～2回 (4/17) 緩和ケア看護学概論(宮下光令) 第3～4回 (4/24) がん性疼痛の治療と看護(宮下光令) 第5～6回 (5/8) がん患者の倦怠感・消化器症状・呼吸器症状の病態と治療(宮下光令) 第7～8回 (5/15) がん患者の倦怠感・消化器症状・呼吸器症状の看護(宮下光令) 第9～10回 (5/29) がん患者の不安・抑うつ・せん妄の病態と治療(宮下光令) 第11～12回 (6/5) がん患者の不安・抑うつ・せん妄の看護(宮下光令) 第13～14回 (6/12) がん患者の社会的問題・スピリチュアルな問題とその看護(宮下光令) 第15～16回 (6/19) 緩和ケアにおける倫理的問題(宮下光令)				
【将来像】 超高齢社会における終末期医療のあり方を理解し、実践できる研究者を養成する。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	医学系 研究科	先端放射線科学概論	放射線技術科学コース教員	2
授業形態	<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> I S T U [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年 4月8日(月)～ 2020年 1月24日(金)			
曜日・時間	ISTU			
キャンパス・建物	ISTU：インターネットが接続できる環境			
講義室等名称	ISTU：インターネットが接続できる環境			
授業代表教員	教授 権田 幸祐（医学系研究科 医用物理学分野）連絡先 7892(内線)			
【授業の目的と概要】 放射線技術科学領域の基礎から臨床に及ぶ最先端の知識を身に付ける。				
【学修の到達目標】 放射線技術科学の原理や最先端の概要を理解し、レポートにまとめる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 画像診断機器の技術進歩、マルチスライス CT、高磁場 MR を用いた体幹部診断技術学、造影剤、フラットパネル、CR を用いた乳房撮影法、インターベンショナルラジオロジー、PET、分子標的薬剤、イメージガイドシステムを用いた定位照射法、強度変調照射法、予測型動態追尾照射法、MRI の技術進歩、MR 拡散画像・灌流画像、神経生理学の基礎と光学イメージング、等のトピックスについて解説される。				
【将来像】 現代の中心的医療技術である放射線を利用した疾病の診断や治療法は、今後の医療を考える上でも重要な技術である。よって、この技術の原理や先端知識を身に付け活用することで、超高齢化社会の未来型医療を創出し得る人材へ成長することが期待される。				
【その他】 基本的に ISTU により学ぶ。ISTU は、受講後に「ISTU 受講レポート」（教職員グループウェアからダウンロード可）を作成し、全講義受講後に医学部教務課大学院教務係へ提出する。提出期限は 2020 年 1 月 24 日(金) とする。 オフィスアワー：水曜日 13:00-14:30。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	医学系研究科	検査医科学概論	医学系研究科保健学専攻検査技術科学コース教員全員	2
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> ISTU [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他（座学かISTUいずれかを選択すること） 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開講期間		2019年4月15日（月）～ 2020年3月23日（月） ISTU：システム更新作業終了後～2020年1月末日		
曜日・時間		毎月1回（原則として第1月曜日）16:30～18:45（ISTU：随時）		
キャンパス・建物		星陵キャンパス・医学部保健学科A棟		
講義室等名称		前期：大講義室（医学部保健学科A棟1階） 後期：第2講義室（医学部保健学科A棟2階）		
授業代表教員		教授 鈴木貴（医学系研究科 病理検査学分野）連絡先 022-717-7947		
【授業の目的と概要】 基礎・臨床検査学の現状から、分子遺伝学・ゲノム科学の臨床検査学への応用に至るまでを学ぶ。				
【学修の到達目標】 検査医科学の基礎能力を養う。				
【授業の内容・方法と進度予定】 医学系研究科保健学専攻検査技術科学コースの各教員の専門分野の講義と、学生の発表によるセミナー形式で行なう。月1回の進度で行なう。教科書は使用しない。詳しくは、初回に説明する。				
【将来像】 検査医科学の視点を生かして未来型医療を実践する。				
【その他】 座学かISTUいずれかを選択して受講すること。ISTUは、「ゲノム検査学概論」と題して講義される場合もあるが、気にしないこと。詳細は鈴木（t-suzuki@patholo2.med.tohoku.ac.jp）に問い合わせること。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	医学系 研究科	医療倫理学 I (Medical Ethics I)	浅井篤教授,大北全俊講師, 圓増文助教,本橋ほづみ教授、 三好一郎教授、川上和義教授	1
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 (<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部) <input checked="" type="checkbox"/> I S T U (<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部) <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開講期間		2019年 4月 9日(火)～ 同年 6月 11日(火)		
曜日・時間		毎週火曜日 18:00～19:30		
キャンパス・建物		医学部 6号館 1階		
講義室等名称		講堂		
授業代表教員		教授 浅井 篤 (医学系研究科)		

【授業の目的と概要】

医療倫理学の基礎的な知識を得るためのコースである。医療倫理学の主要なテーマについて、自分なりの見解をもち議論に参画できるように、基礎的な概念や理論、歴史的背景、議論の概要などを理解することを目的とする。This is a course to learn basic knowledge about medical ethics. The objective of this course is to understand the basic concepts and theories, their historical background, and the summaries of some major topics in order to participate in discussions with one's own thought about the major topics of medical ethics.

【学修の到達目標】

人の出生から死にいたるまでの医療・公衆衛生の主要な倫理的テーマ（例えば、患者と医療者の関係をめぐる自己決定とパターナリズムに関する議論や選択的人工妊娠中絶などで問題となる優生思想、感染症など公衆衛生の分野で問題となる個人と社会の関係、人を対象とする研究で問われる研究と治療の区別の問題など）について、歴史的な背景をはじめ、これまでに重ねられてきた議論の流れおよび使用されている概念、視点の違いによる意見の相違など、多角的な視点からテーマについて理解することを目指し、それら意見の相違に配慮しながら自分なりの考えをもち議論に参画できるように、一定の見識を得ることを目標とする。

The aims of this course covering the main ethical topics, from birth to death, of the medicine and the public health (for instance, the issues of self-determination and paternalism in the patient-medical profession relationship, the selective abortion and eugenics, and the ethical problems about the public health such as infectious disease measures and the clinical research involving human subjects) are:

- ・ to understand those main topics from several points of view including the main concepts and theories, their historical background and various others' opinions about the topics
- ・ to have an insight into the major topics about medical ethics
- ・ to be able to participate in discussions with one's own thought.

【授業の内容・方法と進度予定】

1	4月9日	圓増 文	医療倫理学	医療倫理概論・臨床倫理 Introduction of medical ethics/clinical ethics
2	4月16日	圓増 文	医療倫理学	生殖補助医療技術・遺伝医療にかかわる倫理 Ethics of assisted reproductive technology (ART) and genome medicine
3	4月23日	圓増 文	医療倫理学	人工妊娠中絶・選択的中絶にかかわる倫理 Ethics of abortion (selective abortion)
4	5月7日	大北 全俊	医療倫理学	安楽死・尊厳死・終末期医療にかかわる倫理 Ethics of euthanasia, death with dignity and end of life care
5	5月14日	大北 全俊	医療倫理学	臓器移植・再生医療にかかわる倫理 Ethics of transplantation and regenerative medicine
6	5月21日	浅井 篤	医療倫理学	人を対象とした医学系研究の倫理 Ethics of medical research involving human subjects
7	5月28日	大北 全俊	医療倫理学	公衆衛生倫理 Ethics of public health
8	6月4日	浅井 篤	医療倫理学	人を対象とした医学系研究の倫理Ⅱ(主にヒト検体を使用する研究の倫理) Ethics of medical research involving human subjects II (Mainly, ethics of medical research involving human tissues)
9	6月11日	本橋 ほづみ	遺伝子実験センター	遺伝子組換え実験の倫理 Ethics of genetic engineering <u>※講義日に座学で受講した者のみ、遺伝子実験センター法令講習会受講者とみなされる。</u>
10	ISTU	三好 一郎	医用動物学	動物実験の倫理 Ethics of animal experiments
11	ISTU	川上 和義	感染分子病態解析学	微生物取扱にかかわる倫理 Ethics in treating microorganisms

【将来像】

本コースを修了することで、学習者は医療倫理の主要問題に関する理論、歴史的背景、様々な見解を多様な視点から理解でき、洞察を深め、自身の見解を持ちつつ他の人々との議論に参加できる。加えて未来の医療と科学技術の倫理を考察する能力を身につけることができる。Upon the completion of the course, students will be able to understand those main topics from several points of view including the main concepts and theories, their historical background and various others' opinions about the topics; to have an insight into the major topics about medical ethics; and to be able to participate in discussions with one's own thought. In addition, the students will be able to acquire the capability to deliberate medical ethics in the future healthcare and science and technology.

【その他】 特になし (none)

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	医学系 研究科	保健医療福祉情報ネットワーク論	教授 中山 雅晴、他	1
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月1日(火)～2020年3月24日(火)			
曜日・時間	後期火曜日・4講時(14時40分～16時10分)			
キャンパス・建物	星陵キャンパス 医学部3号館5階			
講義室等名称	医学情報学分野研究室			
授業代表教員	教授 中山 雅晴(医学系研究科)			
【授業の目的と概要】 保健医療福祉情報のネットワーク化に関する基礎知識を習得する。				
【学修の到達目標】 保健医療福祉情報ネットワークシステムと、関連する標準技術について理解する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 ・保健医療福祉情報ネットワーク連携システムについての説明と討論 ・SS-MIX2、DICOM、HL7、IHE等の医療情報におけるネットワーク標準規格の説明 講義およびゼミ形式で行う。(講義回数はISTU含む8回を予定)				
【将来像】 大規模臨床情報の収集から活用までに精通したデータサイエンティスト・システムエンジニアの育成				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	医工学研究科	医療機器開発論	西條 芳文 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月4日(金)～2019年11月22日(金)			
曜日・時間	金曜日・1、2講時(8時50分～12時)			
キャンパス・建物	青葉山東キャンパス・工学部管理棟			
講義室等名称	医工学研究科講義室			
授業代表教員	教授 西條芳文(医工学研究科)			
【授業の目的と概要】 革新的医療機器の開発とその国際展開は日本の命運を担う重要なテーマである。医療機器は医薬品と比較して、その種類が多く使用用途が多岐にわたるため、医薬品のようにすでに存在する化学構造等のシーズを網羅的に探索し大規模に応用展開するのではなく、臨床ニーズを的確に反映した機器を個別に開発することが求められる。この講義では、医療機器創生におけるニーズとシーズのマッチングおよび医療機器実現のためのプロセスをよく理解した国際感覚あふれた人材を育成することを目的とする。				
【学修の到達目標】 医療機器の機能や構造、医療機器産業について理解するとともに、デザイン思考による医療機器開発手法について理解している。				
【授業の内容・方法と進度予定】 医療機器に関する総論として、医療機器の定義、医療機器の種類、医療機器産業の市場規模、医療機器の輸出入額、医薬品と医療機器の比較、医療機器のクラス分類等を教授する。また医療機器に関する各論として、CT、超音波、内視鏡、心電図等の医療機器について、その原理と臨床現場での利用状況について教授することで、医療機器の工学的技術と臨床的ニーズを明らかにする。さらに、デザイン思考による医療機器開発手法について教授し、医療機器開発実習へのスムーズな導入を促す。				
【将来像】 医療機器に関する基礎的理解のもと、デザイン思考による斬新なアイデアを伸長し、医療機器産業および医療機関への導入にとどまらず、他の製造業、通信・サービス業、さらには従来の枠にとらわれない新規産業創出につながることを期待される。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	歯学 研究科	医の倫理・社会の倫理	笹野 泰之 教授	1
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開 講 期 間	2019年4月11日(木)～7月4日(木)			
曜 日 ・ 時 間	木曜日・3～4講時(13時00分～)			
キャンパス・建物	星陵キャンパス 歯学研究科実習講義棟(B棟)			
講義室等名称	B1講義室			
授業代表教員	教授 笹野泰之(歯学研究科)			
【授業の目的と概要】 倫理について深く考え、医療人としての倫理観を啓発する機会とする。 概要：学内外から招聘する多彩な講師の講義を受講し、「医療倫理」「生命倫理」「社会倫理」「研究倫理」に関して広く学ぶ。				
【学修の到達目標】 一般目標：多彩な分野の講師から直接講義を受け、医療人として具備すべき倫理について学ぶ。 個別目標：① 医療倫理、生命倫理の基本について概説できる。 ② 社会倫理、研究倫理の基本について概説できる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 第1回 4月11日(木) 13:00～16:10 総合歯科診療部、予防歯科学、口腔診断学、歯科薬理学 「医療倫理と医療安全 I」 第2回 4月18日(木) 13:00～16:10 伊藤 道哉 東北医科薬科大学 准教授 「医療倫理と医療安全 II」 第3回 4月25日(木) 13:00～16:10 安田 峯生 広島大学 名誉教授 「先天異常にかかわる倫理」 第4回 5月9日(木) 13:00～16:10 武藤 香織 東京大学 医科学研究所 教授 「遺伝学的検査の倫理」 第5回 5月16日(木) 13:00～16:10 清水 哲郎 岩手保健医療大学 学長 「臨床倫理学と臨床死生学」				

第6回 5月23日(木) 13:00～16:10

松崎 丈 宮城教育大学 特別支援教育講座 准教授

「聴覚障害者の立場から歯科医療に望むこと」

第7回 5月30日(木) 13:00～14:30

山口美智子 薬害肝炎全国原告団 前代表

「薬害肝炎との闘い」

第8回 6月27日(木) 13:00～16:10

羽田 貴史 東北大学名誉教授

「学術研究の倫理」

第9回 7月4日(木) 13:00～16:10

武田 康男 東アジアグリーフの集い 代表

「新生児の倫理(生と死の臨床における歯科医療)」

【将来像】

「医の倫理・社会の倫理」を学ぶことで卓越大学院研究を遂行し、これを通して医療従事者・関係者としての倫理および社会構成員としての倫理を身につけた研究者、教育者、医療者、行政者、開発者等となることにより、未来の医療に挑戦することを期待する。

【その他】

実際の履修内容の詳細については、入学当初のガイダンスや指導教員に従ってください。

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	歯学 研究科	イノベティブ基礎歯科学	高橋 信博 教授 真柳 弦 助教	1
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他（一部実習あり） 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	後期			
曜日・時間	火曜日・1講時（8時50分～）			
キャンパス・建物	星陵キャンパス 歯学研究科基礎研究棟（A棟）			
講義室等名称	A1講義室			
授業代表教員	教授 高橋 信博（歯学研究科）			
【授業の目的と概要】 目標と目的：健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療について理解する。 概要：課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」の中核となる科目を中心に講義を行う。				
【学修の到達目標】 一般目標：将来の歯学・歯科医療のあり方について、具体的に考察できる。 個別目標：①異分野融合型の歯学および先端歯科医療について説明できる。 ②正常な咀嚼・嚥下運動の遂行を担う生体機能について理解する。 ③要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を習得する。 ④適切な患者対応を行うためのコミュニケーションに関する知識、技能、態度を習得する。 ⑤硬組織バイオロジーに関する知識を統合整理し、長寿社会における歯科医療の位置づけを確認する。 ⑥スポーツ歯学、周術期の歯科医療について理解する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1 課題解決型高度医療人材養成プログラムが目指すこと 2 異分野融合型先端歯学・歯科医療：先端的歯科医療とは 3 異分野融合型先端歯学・歯科医療：異分野融合型歯学とは 4・5 摂食嚥下のメカニズム 6・7 地域連携と摂食支援 8・9 テイラード・コミュニケーション概論 10・11 長寿を支える硬組織バイオロジー 12・13 スポーツ歯学 14・15 周術期の歯科医療				

【将来像】

「イノベティブ基礎歯科学」を学ぶことで卓越大学院研究を遂行し、これを通して健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療について理解することにより、未来の医療に挑戦することを期待する。

【その他】

実際の履修内容の詳細については、入学当初のガイダンスや指導教員に従ってください。

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	歯学研究科	口腔健康科学特論	高橋 信博 教授	2
授業形態	<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> I S T U [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	後期			
曜日・時間	曜日・ 講時 (時 分～)			
キャンパス・建物	I S T U			
講義室等名称	I S T U			
授業代表教員	教授 高橋信博 (歯学研究科)			
【授業の目的と概要】 ヒトのからだの入口であり、精緻な形態と精密な機能を持つ口腔には膨大な数の微生物が生息し、また、歯科医療に伴い種々のバイオマテリアルが使用される。このような環境を持つ口腔は、ヒトと微生物とバイオマテリアルの調和的共存、すなわち健康の維持を考える良いモデルである。本特論では、歯学、工学、材料学などの分野連携に基づく口腔健康科学を学び、その独自性と普遍性を理解することを目的とする。				
【学修の到達目標】 1. 口腔の形態と機能の概要を説明できる。 2. 口腔に生息する微生物叢の概要を説明できる。 3. 口腔領域における免疫反応の概要を説明できる。 4. 口腔における代表的疾患であるう蝕や歯周病の概要について説明できる。 5. 口腔におけるバイオマテリアルの機能と調和の概要について説明できる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 ISTU(東北大学インターネットスクール)の授業「口腔健康科学特論」において以下6名分を受講し、それぞれの講義についてレポートを提出すること(計6篇、形式任意) 佐々木 啓一 教授 小関 健由 教授 山田 聡 教授 高橋 信博 教授 菅原 俊二 教授 鈴木 治 教授 ※なお、レポート提出後、内容に関してディスカッションを行う場合がある。 レポート提出期限：2020年1月中旬予定(詳細は別途通知) 提出先：歯学研究科教務係宛(窓口提出、郵送、メール添付にて受付) 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1 Email: den-kyom@grp.tohoku.ac.jp Tel.: 022-717-8248				
【将来像】 「口腔健康科学特論」を学ぶことで卓越大学院研究を遂行し、これを通して歯学、工学、材料学などの分野連携に基づく口腔健康科学とその独自性と普遍性を理解した研究者、教育者、医療者、行政者、開発者等となることにより、未来の医療に挑戦することを期待する。				
【その他】 実際の履修内容の詳細については、入学当初のガイダンスや指導教員に従ってください。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D/S	薬学 研究科	応用医療薬学特論 (DC 医療薬学特別講義 II ※)	平澤 典保 教授 土井 隆行 教授 高橋 信行 准教授 古本 祥三 教授 他	3 単位 / 2 単位 ※
授業形態		<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]		
開講期間	2019 年 4 月 11 日 (木) ~ 2019 年 8 月 1 日 (木)			
曜日・時間	木曜日・18 時 ~ 19 時 30 分			
キャンパス・建物	医学系研究科 臨床講義棟			
講義室等名称	1F 臨床小講堂			
授業代表教員	教授 平澤典保 (薬学研究科)			
【授業の目的と概要】 新薬の価値はヒトを対象とした臨床試験および市販後調査での有効性、安全性の結果で決まる。本特論で臨床研究および臨床試験・治験を遂行する上で必要となる基本的な知識と技術を理解する。医薬開発を目指した基礎研究、質のよい臨床試験を実践するための、基礎知識、倫理、方策を学ぶ。				
【学修の到達目標】 ヒトを対象とした臨床試験遂行に必須となる科学性と倫理性を理解した研究者・実践者になることを目標とする。				
【授業の内容・方法と進度予定】 毎回ことなる講師に夜講義をおこない、創薬の基礎、倫理、医療現場での臨床研究など各領域の専門家の講義を聞き、幅広く、最先端の知識を得る。				
【将来像】 創薬の基礎研究から、医療現場での医薬品開発、臨床研究を計画、実施できるようになり、未来の創薬、未来型医療の構築に挑戦することを期待する。				
【その他】 ・出席とレポートを基礎に評価する。 ・教科書・参考書は各講義内で指定する。 ※ DC 医療薬学専攻薬学履修課程				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	薬学 研究科	薬効学特論	寺崎 哲也 教授 福永 浩司 教授 松沢 厚 教授 山國 徹 准教授 野口 拓也 准教授 内田 康雄 講師 他	3
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月8日(月)～2019年6月3日(月)			
曜日・時間	月曜日・1、2講時(9時00分～12時00分)			
キャンパス・建物	薬学研究科			
講義室等名称	大講義室			
授業代表教員	准教授 野口拓也(薬学研究科)			
【授業の目的と概要】 本特論では、ストレス応答シグナルの創薬ターゲットとしての重要性、応答薬効・薬物代謝・薬物動態と有害事象の関連、薬物送達システムの機能と臨床意義、脳の可塑性や脳の機能再生の機構及びそれらをターゲットとした創薬研究の意義、天然薬物の医療及び創薬研究のリード化合物としての重要性を理解する。				
【学修の到達目標】 薬効学の基礎的重要事項を理解し、それらが創薬および医療薬学へ応用することの重要性を理解して説明できるようになることを目的とする。				
【授業の内容・方法と進度予定】 科目構成は、2回の授業を1組とし、1回目の授業で、生体のストレス応答、薬物代謝・薬物動態等に関する高度な専門知識を学び、次の授業で演習により応用力を育成する。講義内容の詳細については薬学研究科のシラバスを参照すること。				
【将来像】 医薬品の作用機構、生体内での動態を律する分子機構について理解し、これを創薬および医療薬学へ応用する力を身につけて、未来の創薬ならびに医療をリードしていくことを期待する。				
【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ・演習における討議・発表・レポート等を基礎に総合的に評価する。 ・各担当者が随時参考図書や文献を紹介する。 ・到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められる。 				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	薬学 研究科	医薬品化学特論	徳山英利教授 土井隆行教授 菊地晴久准教授 他	3
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年6月13日(木)～2019年7月25日(木)			
曜日・時間	木曜日・1、2講時(9時00分～12時00分)			
キャンパス・建物	薬学研究科 B棟			
講義室等名称	第一小講義室			
授業代表教員	教授 徳山英利(薬学研究科)			
【授業の目的と概要】 本特論では、医薬品開発の重要な資源となる分子群について合成化学、構造化学、機能化学、計算化学の観点から多面的に学び、創薬に有用と考えられる分子構築法、合成技術、分子設計、天然資源探索の方法論を理解する。更に演習を通して医薬品化学の理解を深める。				
【学修の到達目標】 創薬研究に必要な最新の医薬開発の方法論を深く理解するとともに、将来研究開発の場で求められる研究者としての判断力を身につけることを目標とする。				
【授業の内容・方法と進度予定】 科目構成は、2回の授業を1組とし、1回目の授業で医薬品化学に関する高度な専門知識を学び、次の授業で演習により応用力を育成する。講義内容の詳細については薬学研究科のシラバスを参照すること。				
【将来像】 医薬品開発研究に必要な最新の医薬品化学とその方法論を深く理解して、新しい創薬理論を構築し、革新的な創薬をリードすることを期待する。				
【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの講義の出席、演習の出席と発表やレポートの評価、特別講義の出席とレポートによる評価をもとに総合的に判断する。 ・それぞれの講義において、各担当者が参考書あるいは文献を紹介する。 ・講義の内容について事前に関連の予備知識を整理しておくこと。講義後は、講義の内容についてさらに各自で学習を進めるなどして理解を深めること。 				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D/T	薬学 研究科	分子解析学特論	大江 知行 教授 中林 孝和 教授 古本 祥三 教授 金野 智浩 教授 梶本 真司 講師	3
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年5月9日(木)～2019年6月20日(木)			
曜日・時間	木曜日・1、2講時(9時00分～12時00分)			
キャンパス・建物	薬学研究科			
講義室等名称	大講義室			
授業代表教員	教授 金野智浩(薬学研究科)			
【授業の目的と概要】 生体内のイオンからタンパク質やDNAなどの生体高分子やバイオマテリアルなどの合成高分子にいたるまでの広範な分子の挙動を、主に物理化学的な原理に立脚して統一的に理解する方法論を学ぶ。さらに、これらの方法論が実際の機器分析法を通じて、生体分子の構造解析や医薬品の定量分析にどのように用いられているかを理解する。				
【学修の到達目標】 以下の項目の原理および実際例について理解する；バイオマテリアルの表面物性、ソフトマテリアルの材料特性、蛍光を用いたタンパク質・細胞解析、抗体の構造と機能、質量分析法による生体分子の解析、放射線を利用した分子イメージング、超解像顕微鏡による細胞観測。また、関連論文の読解力とレポート作成能力の向上にも努める。				
【授業の内容・方法と進度予定】 科目構成は、2回の授業を1組とし、1回目の授業で創薬基盤材料、創薬分析技術、分子診断技術に関する高度な専門知識を学び、次の授業で演習により応用力・展開力を育成する。講義内容の詳細については薬学研究科のシラバスを参照すること。				
【将来像】 医薬品・医療機器の物理化学的側面を理解し、革新的な医薬品、医療機器の開発の推進に寄与することを期待する。				
【その他】 講義への出席を重視するとともに、演習における質疑応答とレポートを基礎に評価する。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	医工学 研究科	医療機器ビジネス学	永富良一教授、福嶋路 教授（経済学研究科）、 加藤毅(産学連携本部)	2
授業形態	<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他（グループワークショップ（演習）） 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月10日（水）～ 2019年7月24日（水）			
曜日・時間	水曜日・ 1講時（8時30分～10:00）			
キャンパス・建物	星陵キャンパス 医工学実験棟			
講義室等名称	医工学実験棟 2F 共同講義室			
授業代表教員	教授 永富 良一（医工学研究科）			
【授業の目的と概要】 新しく医療機器が実用化され医療現場で使用されるためには研究開発や臨床試験と並行して、材料調達、製造、販売やアフターケアなどが事業化されビジネスとして成立することが必要である。企業連携や研究開発体制との連携も不可欠である。この一連のプロセス、ビジネスエコシステムは実用化される国の保健医療政策に基づく医療制度によっても異なる。本科目では、受講生が将来医療機器の実用化に関わるときの自分の立場・位置づけと役割の概要が理解できることを目的とする。				
【学修の到達目標】 医療機器創出ビジネスの理解（デザイン思考および各プレイヤーや組織の位置づけや役割）、ワークショップにおいて仮想医療現場で価値のあるニーズを探索しビジネスにつなげるための演習を行う。演習の成果のプレゼンテーション（ビジネスコンテスト相当）をもって評価する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 数単位のグループによるグループワークを中心とする。グループワークの成果は必ずプレゼンテーションで発表を行う。 保健医療制度を知ろう（2回）、未来の社会と医療を予想してみよう（9回）、医療機器実用化演習(8回):仮想医療現場でのニーズ探索、ニーズの価値、医療機器の市場、効果的なプレゼンテーション、成果発表 講義として知的財産の重要性、政策の重要性を事例を通じて学ぶ				
【将来像】 将来革新的医療機器の企画開発、ベンチャー起業、医療機器審査、医療機器開発研究に携わる者に必要な考え方を身につける。				
【その他】 7月6日（土）、7日（日）に開催予定のビジネスゲーム合宿に参加することが望ましい。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	医工学 研究科	医療機器レギュラトリー サイエンス学	太田信教授、池田浩治 (大学病院)	2
授業形態	<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他 (グループワークショップ (演習)) 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月10日(水)～2019年7月24日(水)			
曜日・時間	水曜日・2講時(10時30分～12:00)			
キャンパス・建物	星陵キャンパス 医工学実験棟			
講義室等名称	医工学実験棟 2F 共同講義室			
授業代表教員	教授 太田信 (医工学研究科)			
【授業の目的と概要】 医療機器を社会に提供するには、安全性、有効性、品質の担保はもちろん人と社会に調和することが求められる。本講義では、評価科学と規制科学の観点からレギュラトリーサイエンスの基本的な考え方を涵養し、その応用である安全性の基準作りについて概観する。また、医療機器の基準を、グループ活動を通して作成し、基準作りの重要性を身につける。さらに、ISOやJISでの活動状況を俯瞰し、医療機器開発能力を養成する。				
【学修の到達目標】 医療分野の研究開発に際し、その成果物の品質管理や安全性に関し、科学的知見の構築の仕方、国内外における社会的政策への反映、および社会実装における開発者の責務について理解をする。レギュラトリーサイエンスに基づいた医療機器の社会実装の妥当性、有効性及び安全性の確保、ISOにおける取り組みについて、理解をする。				
【授業の内容・方法と進度予定】 レギュラトリーサイエンスとは(座学),医療機器開発の現状と課題,医療機器開発が難しい理由,医薬品医療機器等法の基本的な考え方,医療機器の品質管理,医療機器のリスク分析,有効性と安全性の範囲,ヒトに初めて使うということ,医療機器にレギュラトリーサイエンスを活用する。医療機器の実用化に向けて考えておくべきこと JISにおける医療機器の試験法について,ISOにおける医療機器の試験法について(例1),ISOにおける医療機器の試験法について(例2),新医療機器(ソフトウェア)における試験法について,機械分野における安全率の考え方と医療機器				
【将来像】 将来革新的医療機器の企画開発、ベンチャー起業、医療機器審査、医療機器開発研究に携わる者に必要な考え方を身につける。				
【その他】 7月6日(土)、7日(日)に開催予定のビジネスゲーム合宿に参加することが望ましい。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
S	医工学 研究科	医工コーチング概論	出江 紳一 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他（実技の練習を含む） 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開 講 期 間	2019年4月11日（木）～ 2019年7月25日（木）			
曜 日 ・ 時 間	木曜日・ 講時（17時30分～19時00分）			
キャンパス・建物	星陵キャンパス教育研究基盤支援棟			
講義室等名称	2階 第2セミナー室（予定，変更可能性あり）			
授業代表教員	教授 出江 紳一（医工学研究科）			
【授業の目的と概要】 コミュニケーション能力は、企業・組織が求める人材が備えているべき能力であるだけでなく、研究活動においても必須の技能である。コーチングは相手の主体的な行動を促進し、目標達成を支援するコミュニケーションとして、スポーツ、企業、教育、医療など様々な領域で活用されている。本講義では、大学院における研究活動ならびに修了後のキャリアにおいて役に立つコーチング技能を学ぶことを目的として、コーチング技能を習得しながら、研究室内外のチームワークなど、現実の課題に取り組む構造の授業を実施する。				
【学修の到達目標】 コーチングの目的、原則、基本的スキルを理解し、研究室におけるコミュニケーションなどにおいて活用することができる。				
【授業の内容・方法と進度予定】 1. オリエンテーション 2. コーチングとは何か 3. コーチングの概略 4. 目標設定 5. 「聞く」スキル 6. 「質問」のスキル 7. 「承認」のスキル 8. 信頼関係を築く 9. ビジョン 10. コミュニケーションのタイプ分け 11. 「提案・要望」のスキル 12. 「フィードバック」のスキル 13. エネルギーマネジメント 14. 成果発表会				
【将来像】 研究および将来のキャリアにとって大切な信頼関係を築き、多様な人々と協力してプロジェクトを推進できる人材に成長することを期待する。				
【その他】 授業への出席と参加の度合い、レポート、成果発表のプレゼンテーションにより評価する。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	医学系研究科	医療機器トレーニング	西條 芳文 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月4日(金)～2019年11月22日(金)			
曜日・時間	金曜日・1、2講時(8時50分～12時)			
キャンパス・建物	青葉山東キャンパス・工学部管理棟			
講義室等名称	医工学研究科講義室			
授業代表教員	教授 西條芳文(医工学研究科)			
【授業の目的と概要】 革新的医療機器の開発とその国際展開は日本の命運を担う重要なテーマである。医療機器は医薬品と比較して、その種類が多く使用用途が多岐にわたるため、医薬品のようにすでに存在する化学構造等のシーズを網羅的に探索し大規模に応用展開するのではなく、臨床ニーズを的確に反映した機器を個別に開発することが求められる。この講義では、医療機器創生におけるニーズとシーズのマッチングおよび医療機器実現のためのプロセスをよく理解した国際感覚あふれた人材を育成することを目的とする。				
【学修の到達目標】 医療機器の機能や構造、医療機器産業について理解するとともに、デザイン思考による医療機器開発手法について理解している。				
【授業の内容・方法と進度予定】 医療機器に関する総論として、医療機器の定義、医療機器の種類、医療機器産業の市場規模、医療機器の輸出入額、医薬品と医療機器の比較、医療機器のクラス分類等を教授する。また医療機器に関する各論として、CT、超音波、内視鏡、心電図等の医療機器について、その原理と臨床現場での利用状況について教授することで、医療機器の工学的技術と臨床的ニーズを明らかにする。さらに、デザイン思考による医療機器開発手法について教授し、医療機器開発実習へのスムーズな導入を促す。				
【将来像】 医療機器に関する基礎的理解のもと、デザイン思考による斬新なアイデアを伸長し、医療機器産業および医療機関への導入にとどまらず、他の製造業、通信・サービス業、さらには従来の枠にとらわれない新規産業創出につながることを期待される。				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	情報科学研究科	データ科学基礎		2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年10月 日 () ~ 年 月 日 ()			
曜日・時間	曜日・ 講時 (時 分 ~)			
キャンパス・建物	青葉山キャンパス・情報科学研究科棟			
講義室等名称				
授業代表教員				
【授業の目的と概要】				
【学修の到達目標】				
【授業の内容・方法と進度予定】				
【将来像】				
【その他】 現在調整中のため、決まり次第情報科学研究科ホームページで告知する。				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	情報科学研究科	応用データ科学	情報学：大林武准教授,山田和範助教,中尾光之教授 経済応用：矢島美寛非常勤講師 生物学・生態学応用：佐藤修正准教授,牧野能士教授,日出間純准教授,河田雅圭教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> ISTU [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月9日()～ 年 月 日()			
曜日・時間	火曜日・ 4講時(14時40分～)			
キャンパス・建物	青葉山キャンパス・情報科学研究科棟			
講義室等名称	中講義室			
授業代表教員				
【授業の目的と概要】 目的 データ科学においては、その学問的基盤としての数理や計算機科学と共に、実際に、データ科学に基づいて、どのような問題をどのように解くのが重要である。そのようなデータ科学に基づく問題解決能力を身に着けることが本講義の目的である。 概要 本講義は、線形回帰モデルの経済学応用、データ科学の生物学および生態学への応用の実際についてそれぞれの専門家が説明する。				
【学修の到達目標】 1.データ科学がどのような問題解決に実際に応用されているかを知る。 2.それぞれの問題におけるデータ科学の応用の仕方について知識を得る。				
【授業の内容・方法と進度予定】 生物学および生態学へのデータ科学の応用 4/9 生物学分野におけるビッグデータを生み出す技術の進捗(佐藤修正) 4/16 生物学分野におけるビッグデータの応用例(佐藤修正) 4/23 比較ゲノム学(牧野能士) 5/7 植物の環境適応に関わるデータとその解析(日出間純) 5/14 生物多様性の進化と生態に関わるデータとその解析(河田雅圭) 5/21 タイトル未定(大林武) 5/28 タイトル未定(大林武) 線形回帰モデルの経済学への応用 6/4 単純回帰(矢島美寛) 6/11 重回帰(矢島美寛)				

6/18 最小二乗法(矢島美寛)

6/25 t-検定(矢島美寛)

7/2 経済学への応用(矢島美寛)

最適化手法の情報学における応用

7/9 動的計画法(山田和範)

7/16 ニューラルネットワーク(山田和範)

7/23 サポートベクターマシン(山田和範)

【将来像】

【その他】

配布した資料に基づいて予習と復習を欠かさず行うこと。

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	情報科学研究科	ビッグデータスキルアップ演習	山田 和範 准教授, 中山 卓郎 助教, 李 銀星 助教	1
授業形態	<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他 (プログラミング演習) 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年 月 日 () ~ 年 月 日 ()			
曜日・時間	曜日・ 講時 (時 分 ~)			
キャンパス・建物	青葉山キャンパス・情報科学研究科棟			
講義室等名称				
授業代表教員				
【授業の目的と概要】 利用可能な情報の増加に伴い、それらを扱うためのコンピュータスキルの重要性も増している。本講義では、プログラミング未学習者または初学者に対して、ビッグデータを扱うための基本的なコンピュータスキル、特に、Linux システムおよびプログラミング言語 (Python) の基本的な使い方を習得する。講義は英語で行なう。				
【学修の到達目標】				
【授業の内容・方法と進度予定】 講義は1日あたり2コマ(180分)で行なう。 1. ウェブベースのプログラミングトレーニング。 2. ウェブベースのプログラミングトレーニング。 3. 個人個人の計算機へのプログラミング環境の構築。 4. 実際のデータの取り扱いのトレーニング。 5. 実際のデータの取り扱いのトレーニング。				
【将来像】				
【その他】 集中講義形式で行う。 ラップトップ持参のこと。所持していない場合は事前に連絡お願いいたします。 関連ウェブサイト http://gp-ds.tohoku.ac.jp/curriculum/class_list.html http://gp-ds.tohoku.ac.jp/class/skillup_2018b/				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	情報科学研究科	データ科学トレーニングキャンプ I	山田 和範 准教授, 中山 卓郎 助教, 李 銀星 助教	1
授業形態	<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他 (プログラミング演習) 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年 月 日 () ~ 年 月 日 ()			
曜日・時間	曜日・ 講時 (時 分 ~)			
キャンパス・建物	青葉山キャンパス・情報科学研究科棟			
講義室等名称				
授業代表教員				
【授業の目的と概要】 ビッグデータ時代の幕開けを迎えた現代において、それらを扱うための解析技術、特に、コンピュータスキルの重要性が増している。本講義では、コンピュータプログラミングの技術を高めるために、様々なプログラミング演習問題に集中的に取り組む。本講義はpythonの基本的な使い方を習得している方を対象とする。プログラミング未経験者はあらかじめビッグデータスキルアップトレーニングを受講することを推奨する。講義は英語で行なう。				
【学修の到達目標】				
【授業の内容・方法と進度予定】 以下に分類される必修 50 問および選択 2 問の問題を解く。講師が教室内に常駐し、質問を受け付ける。 [必修問題] - 基本的な計算 - データ構造 - 関数 - ライブラリの使用 - 多次元配列 (行列演算) - 乱数の扱い - ファイル入出力および文字列処理 [選択問題] - 文字列処理 - 機械学習 - 生命科学 - 数値計算				
【将来像】				
【その他】 土日を含む 3 日間の集中講義形式で行う。 ラップトップ持参のこと。所持していない場合は事前に連絡お願いいたします。 関連ウェブサイト http://gp-ds.tohoku.ac.jp/curriculum/class_list.html http://gp-ds.tohoku.ac.jp/class/camp1_2018b/				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	情報科学研究科	データ科学トレーニングキャンプ II	中尾 光之 教授, 山田 和範 准教授, 中山 卓郎 助教, 李 銀星 助教	1
授業形態	<input type="checkbox"/> 座学 [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input checked="" type="checkbox"/> その他 (プログラミング演習) 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年 月 日 () ~ 年 月 日 ()			
曜日・時間	曜日・ 講時 (時 分 ~)			
キャンパス・建物	青葉山キャンパス・情報科学研究科棟			
講義室等名称	中講義室			
授業代表教員				
【授業の目的と概要】 チーム単位で実際のビッグデータのハンドリングが必要な疑似プロジェクトに取り組むことで、実際の大規模研究の進め方を学ぶ。チームでは主に実際の計算部分を担当し、計算技術の向上を目指す。本講義は基礎的なプログラミング技能を習得している方を対象とする。受講者はあらかじめトレーニングキャンプIを受講することを推奨する。				
【学修の到達目標】				
【授業の内容・方法と進度予定】 チームに分かれ、各チームに所属する博士の学生の指示に従い、デジタル広告データに関する問題をデータ科学的な手法を用いて解く。				
【将来像】				
【その他】 全8回、1回2コマで行なう。 ラップトップ持参のこと。所持していない場合は事前に連絡お願いいたします。 関連ウェブサイト http://gp-ds.tohoku.ac.jp/curriculum/class_list.html				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	情報科学研究科	情報倫理学	篠澤教授、原准教授（文学研究科）、菅沼教授、徳川教授、森教授、窪准教授、直江教授（文学研究科）、静谷教授、曾根教授、内田助教、中尾教授、戸次教授（法学研究科）	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月11日() ~ 年 月 日()			
曜日・時間	木曜日・ 2講時(10時30分～)			
キャンパス・建物	青葉山キャンパス・情報科学研究科棟			
講義室等名称	大講義室			
授業代表教員				
<p>【授業の目的と概要】</p> <p>現代社会は、情報技術なしには機能しえない。そして、情報技術の進展とその浸透が私たちの社会にもたらす恩恵・利便性は、飛躍的に増大しつつある。しかし同時に、高度情報化社会は種々の技術的・法制的・倫理的な問題にも直面している。「情報倫理学」は、そのような問題群を多角的・学際的に検討していくために構築された学問領域である。講義の題材を手がかりにして自分自身で考えながら、問題への感性と認識を深め、情報社会のなかで生きることの意味をつねに問い直していくことは、これからの社会の一員にとって不可欠の基本的素養である。</p> <p>■講義概要</p> <p>◎4月11日 情報と倫理（篠澤） 「情報倫理学」が一つの学問領域として成立した歴史的経緯、およびその考察対象となる主要な問題群を確認しながら、「情報」と「倫理」がコンピュータ・ネットワーク社会において「情報倫理学」として融合、統合していくことの意味を考察する。これによって、情報化社会における人間のあり方を考えることへの認識と理解を深める。</p> <p>◎4月18日 リスクコミュニケーションにおける感情の役割（原 [文学研究科]） ある科学技術に伴うリスクは、その科学技術の導入を進めたいと考える専門家と、潜在的にリスクにさらされる人びととを、しばしば厳しく対立させる。一般の人びとの反応はきわめて感情的であるがゆえに、専門家から、誇張されていて、不合理であると認識しやすい。しかし、本当にそのように解釈してよいのだろうか。この講義では、リスクコミュニケーションにおいて一般の市民の感情がもつ役割について考察する。</p> <p>◎4月25日 ネチケット（菅沼） 「ネチケット」とは、快適にネットワークを利用するためのエチケット、マナーなどの規範である。ネチケットが必要とされる社会的背景及びネットワーク社会で合意されてきた経緯を考える。また、ネチケットに含まれるとされている具体例を通じて、現在のネットワーク社会における倫理の捉え方について考察する。</p>				

◎ 5月9日 情報社会における「声と耳」(徳川)

発信機会の増大やコンテンツ作成時の倫理に焦点を合わせる議論が多い。この回では、受信者としての私たちについて省み、情報倫理を他者の「声」に対する私たちの「耳」の感受性の問題と喩え、言及の枠組みや解釈の実践にかかわる問題であるととらえなおしたい。社会的世界の分化と言説のポリティクスについての社会学的見解を簡略に検討した後、応答的な耳の社会的構成にとっての持続的学習の必要と「聞く耳を持つ社会」のイメージをふくらませたい。

◎ 5月16日 ロボットの倫理(森)

「ロボットの倫理」は、「ロボティクス」つまりロボット工学に関する哲学的・倫理的問題を熟考することを目的とする。そのための手がかりとして、カレル・チャペックの有名な『ロボット』(1920年)を取り上げる。

◎ 5月23日 ポップカルチャーと現代消費社会(窪)

現代の文化について語る場合、マンガなどのポップカルチャー抜きに語ることは出来ない。それ故に様々なトラブルがそこから派生してくる。このポップカルチャーの現状、および現代のデジタル社会における問題点を考察する。

◎ 5月30日 科学技術の倫理(直江[文学研究科])

人間社会の中で情報を扱う際の科学技術の倫理について理解を深める。「責任ある研究とイノベーション」のような最新の議論をもとに、従来の開発→社会実装といった発想に代わるとされる参加型の技術評価の現状や、AI化の孕む新たな社会的な側面について、受講者とともに議論していく。

◎ 6月6日 暗号(静谷)

情報倫理を含む諸学問と暗号の科学・技術との位置関係、現代暗号の特徴と機能などを確認した後、計算量理論の観点から安全性を議論する。特に、高度情報社会の安全性が $P \neq NP$ 予想に支えられていることを確認する。

◎ 6月13日&20日 情報セキュリティ(曾根)

情報セキュリティ対策において取り組むべき情報資源と脅威、および情報の利用・流通、利便性とのバランスについて概観する。その後、情報と情報システムの安全性と信頼性を確保するための技術的、倫理的対策、及び、運用管理者や利用者に関する制度と体制を考える。

◎ 6月27日 生命倫理(中尾)

安楽死からヒトクローンに至るまで、我々が、自身の生物観・人間観に基づいて決断しなくてはならない問題が顕在化してきている。そのよりどころの一つとなるのが「生命倫理」である。その現状について説明する。この講義を自分なりの生命倫理について考えるきっかけにして欲しい。

い。

◎ 7月4日 遺伝情報(内田)

ヒトゲノムプロジェクトの進展によって、DNAの配列情報は生物学的個人情報として医療における診断や予防だけでなく、犯罪の捜査など様々な形で利用され始めている。個人から遺伝情報がどのようにして得られ、解析されるのかを学び、生物学的個人情報を個人や社会がどのようにして管理、利用することが求められているかを考える。

◎ 7月11日&18日 知的財産権(戸次[法学研究科])

知的財産や知的財産権について理解することにより、情報の利用に際して倫理的な問題と法制度的な問題を意識的に捉えて対応することが可能となる。今回は主に特許制度を題材として、知的財産が保護される要件を理解し、他者の知的財産を利用する立場と自らの知

的財産が利用される立場の両面からの視点で概観する。

【学修の到達目標】

【授業の内容・方法と進度予定】

講義日程（予定）は、以下の通りです。

変更については、初回講義に周知しますので、必ず確認してください。

(1) 4月11日 イントロダクション（篠澤）

【第1グループ】

(2) 4月18日 リスクコミュニケーションにおける感情の役割（原 [文学研究科]）

(3) 4月25日 ネチケット（菅沼）

(4) 5月9日 情報社会における「声と耳」（徳川）

(5) 5月16日 ロボットの倫理（森）

【第2グループ】

(6) 5月23日 ポップカルチャーと現代消費社会（窪）

(7) 5月30日 科学技術と倫理（直江 [文学研究科]）

(8) 6月6日 暗号（静谷）

(9) 6月13日 情報セキュリティ（1）（曾根）

(10) 6月20日 情報セキュリティ（2）（曾根）

【第3グループ】

(11) 6月27日 生命倫理（中尾）

(12) 7月4日 遺伝情報（内田）

(13) 7月11日 知的財産権（1）（戸次 [法学研究科]）

(14) 7月18日 知的財産権（2）（戸次 [法学研究科]）

(15) 7月25日 **【予備日】**

【将来像】

【その他】

授業前は、予定された授業テーマについて文献調査などを行ない、疑問点を整理しておくこと。授業後は、参考文献などによって講義で学んだ事柄についての理解を深化させること。

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	情報科学研究科	情報法律制度論	河村 和徳 教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月10日() ~ 年 月 日()			
曜日・時間	水曜日・ 1 講時 (8時50分 ~)			
キャンパス・建物	青葉山キャンパス・情報科学研究科棟			
講義室等名称	大講義室			
授業代表教員				
【授業の目的と概要】 情報通信技術(ICT)の発達によって、法律としてこれまで意識しなかった分野まで、我々は配慮しなければならなくなった。それは肖像権や著作権といった民法レベルにとどまらず、公文書のあり方や個人情報保護のあり方など幅広い。法律は強制力を有しているので、知らなかったでは済まされない部分もあり、また法律が我々の研究を制約する可能性も十分ある。我々は法律にかかわる問題についても、技術と同じように人並み以上の知識を有する必要があるし、市民社会の一員としての技術者と市民との橋渡しを努めなければならない。この講義は、情報セキュリティ、知的財産権、個人情報など、ICT にまつわる法律問題を解説する一方、情報社会の到来によって制度がどのように変容しているのか理解することを目標とし、講義を進めていく。				
【学修の到達目標】				
【授業の内容・方法と進度予定】 授業内容は次の通り。1 ガイダンス 2 電子商取引 3 仮想通貨 4 ドローン規制 5 子どもとインターネット 6 インターネット投票 7 ライフログ 8 クラウド・コンピューティング 9 プロバイダ責任制限法 10 検索エンジン 11 個人情報保護 12 情報セキュリティ 13 ビッグデータ 14 サイバー犯罪 15 知的財産				
【将来像】				
【その他】				

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
D	情報科学研究科	人文情報科学概論	小川芳樹教授、邑本俊亮教授、堀田龍也教授、森一郎教授、篠澤和久教授、徳川直人教授、菊地朗准教授、森田直子准教授、窪俊一准教授、和田裕一准教授、河村和徳准教授、藤原直哉准教授、伊藤亮准教授	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年4月8日()～ 年 月 日()			
曜日・時間	月曜日・ 1 講時(8時50分～)			
キャンパス・建物	青葉山キャンパス・情報科学研究科棟			
講義室等名称	大講義室			
授業代表教員				
【授業の目的と概要】 主に情報科学研究科に所属する人文科学系の教員がそれぞれの研究分野・専門の立場から情報科学におけるその固有の意義・価値・必要性などを論じ、それぞれの学問的アイデンティティを構築するとともに、文理融合・学際性を標榜する情報科学の本来的特質に迫ろうとする。				
【学修の到達目標】				
【授業の内容・方法と進度予定】 (1)イントロダクション～言語システムと情報科学～(菊地) (2)情報と倫理(篠澤) (3)多様性と情報ユニバーサルデザイン(徳川) (4)文学とコミュニケーション(森田) (5)ことばとコミュニケーション(長野) (6)テクノロジーを哲学する(森) (7)経済と情報(伊藤) (8)情報技術の進展とリテラシー(堀田) (9)情報と認知バイアス(邑本) (10)選挙における公正と情報通信技術(河村) (11)言語変化・変異とコーパス(小川) (12)マンガの認知心理学(和田) (13)地理情報と複雑ネットワーク(藤原) (14)デジタル時代とマンガの読み方(窪) (15)まとめ				

【将来像】

【その他】

- (1) シラバスの詳細、レポート提出などについて「イントロダクション」の際に及び各担当教員から説明する。
- (2) 講義回数の3分の1以上欠席した場合、履修放棄とみなす。
- (3) 遅刻厳禁
- (4) レポートは必ず3回提出のこと

コース	担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
T	生命科学 学研究科	環境マネジメント講座	中静 透 教授 藤田 香 非常勤講師	1
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 () 使用言語 [<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語併用]			
開講期間	2019年5月17(金)			
曜日・時間	金曜日・(9時00分～16時20分)			
キャンパス・建物	片平キャンパス 生命科学プロジェクト総合研究棟			
講義室等名称	104・105 講義室			
授業代表教員	教授 河田 雅圭 (生命科学学研究科)			
【授業の目的と概要】 温暖化など気候変動や人間活動に伴う地球環境問題が人間社会にどのような影響を及ぼしているか、また、今後どのような影響が考えられるかを講義する。 さらに、そのような地球環境問題が企業運営、行政による政策実施運営に及ぼす影響を把握・予測する。 それらを踏まえて環境問題による資源・環境制約に人間がどう向き合い対応していく環境マネジメントについて講義する。				
【学修の到達目標】 主要な地球環境問題が人間社会に及ぼす影響を把握・予測すると同時に、企業や行政運営にどのような影響が予想されるかについて理解する。また、環境問題による資源・環境制約に人間がどう向き合い対応していくべきかを、環境マネジメントのシステムの実体と将来に向けた課題について理解する。				
【授業の内容・方法と進度予定】 2019年5月17日(金) 9:00 ~ 16:20 講師：中静 透 先生 (総合地球環境学研究所)、藤田 香 先生 (日経 BP 社) 第1回：地球環境問題全体の概観 第2回：気候変動が生物・生態系に与える影響 第3回：気候変動に対する社会の対応 第4回：水資源問題と生態系管理 第5回：水資源問題に対する社会の対応 第6回：生物多様性と生態系サービス 第7回：生物多様性問題に対する社会の対応 第8回：地球環境問題に対する科学的研究の貢献 1日ですべての講義を行い、講義後に討論を行う。				

本研究科所属の留学生は、別途生命科学研究科教務係
(022-217-5706、lif-kyom*grp.tohoku.ac.jp)までお問い合わせください。

※メールアドレスは、*を@に変えて送信してください。

/ Foreign students, please contact the office of the Educational Affairs section, Graduate
School of Life Sciences (022-217-5706、lif-kyom*grp.tohoku.ac.jp) for details.

【将来像】

【その他】

出席およびレポートによって評価する。

A4用紙2枚程度のレポートを提出すること。

レポートには講師名を明記すること。

レポートのテーマは、各講義のなかで紹介する。

テキストは各回配布する。

参考書・参考資料等：生態適応科学，日経BP社

時間外学習によりレポートを作成すること。

レポート提出先：生命科学研究科教務係

提出締め切り：2019年6月20日（木曜日）